

# 2

Annual Report 2013

# 診 療 部

外来診療担当表

呼吸器内科

内分泌内科

神経内科

リウマチ・膠原病センター

糖尿病センター

循環器内科

消化器内視鏡センター

人工透析センター

外科

脳神経外科

心臓血管外科

皮膚科

小児科

泌尿器科

耳鼻咽喉科

放射線科

麻酔科

病理部

認知症疾患医療センター

健康増進センター

学会発表実績

# 外来診療担当表

(非)=非常勤、(再)=再診

		月		火		水		木		金		
		午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	
内科	呼吸器	小林 奨		副島 佳文		副島 佳文 (新紹介のみ)		小林 奨				
	内分泌							安部 恵代 (非再・第2木曜)	大財 茂 (非)	藤山 薫 (非)		
	骨代謝										藤山 薫 (非)	
	腎・透析		森 篤史						森 篤史 (再)	林 和歌 (非・再)	林 和歌 (非・再)	
	神経科	新患					竹尾 剛		中村 龍文 (非隔週)			
		再来	竹尾 剛		竹尾 剛				中村 龍文 (非隔週)		竹尾 剛	
	リウマチ 膠原病 センター	新患	一瀬 邦弘 (非)		岩本 直樹 (非) 一瀬 邦弘 (非)	岩本 直樹 (非)	植木 幸孝				荒牧 俊幸	
		再来	植木 幸孝	植木 幸孝	一瀬 邦弘 (非)	一瀬 邦弘 (非)	福田 紘介	寺田 馨	荒牧 俊幸		植木 幸孝	
			荒牧 俊幸		岩本 直樹 (非)	岩本 直樹 (非)			福田 紘介		寺田 馨	
	糖尿病 センター	新患	森 良孝				二里 哲朗		二里 哲朗		松本 一成	
再来		松本 一成 二里 哲朗		松本 一成 二里 哲朗	森 芙美	松本 一成 森 良孝	松本 一成	松本 一成 森 良孝		森 良孝 二里 哲朗		
循環器 内科	新患	木崎 嘉久		矢野 捷介 (非)		中尾功二郎		木崎 嘉久		矢野 捷介 (非)		
	再来	赤司 良平		中尾功二郎		木崎 嘉久		中尾功二郎		木崎 嘉久		
				本田 智大		赤司 良平						
	検査外来	(中尾功二郎)		(木崎 嘉久)		(本田 智大)		(赤司 良平)		(中尾功二郎)		
(本田 智大)			(赤司 良平)				(本田 智大)		(赤司 良平)			
消化器 内科	(消化管)	加茂 泰広		松崎 寿久	富永 雅也 (再) 竹島 史直 (非隔週)	小田 英俊	磯本 一 (非隔週)	小田 英俊		松本 耕輔		
	(肝胆膵)	草場麻里子 (非)		木下 昇		松崎 寿久		加茂 泰広		木下 昇 松本 耕輔		
	内視鏡 担当	小田 英俊		松本 耕輔		草場麻里子		松本 耕輔		小田 英俊		
		松崎 寿久		加茂 泰広		木下 昇		松崎 寿久		加茂 泰広		
	中尾 治彦		中尾 治彦		富永 雅也		木下 昇		中尾 治彦			
					中尾 治彦		橋爪 聡					
人工透 析セ ンター	林 和歌 森 篤史	林 和歌 森 篤史	森 篤史	森 篤史	林 和歌 森 篤史	林 和歌 森 篤史	森 篤史	森 篤史	森 篤史	林 和歌 森 篤史	林 和歌 森 篤史	
外科	新患	梶原 啓司	※	草場 隆史	※	碓 秀樹	※	重政 有	※	高村 祐磨	※	
		重政 有								佐々木伸文		
	再来	碓 秀樹		菅村 洋治 (非)		梶原 啓司	羽田野和彦 (非)	濱田 聖暁		碓 秀樹		
(名譽顧問外来)	國崎 忠臣 (非)				菅村 洋治 (非)							
整形外科 (新患・紹介のみ)	北原 博之		宮原 健次		北原 博之		宮原 健次		北原 博之 (第1,3,5週) 宮原 健次 (第2,4週)			
脳神経外科	阪元政三郎	※	※	※	阪元政三郎	※	※	※	※	阪元政三郎	※	
	竹本光一郎				衛藤 達 (非)					竹本光一郎		

2014年7月31日現在

		月		火		水		木		金	
		午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
心臓血管外科		※	※	柴田隆一郎	※	※	※	柴田隆一郎	※	※	※
皮膚科		山口 宣久	※	山口 宣久	※	山口 宣久	※	山口 宣久	※	山口 宣久	※
小児科		山田 克彦	循環器外来 (第1,第3,第5週)	山田 克彦	乳幼児健診 予防接種	山田 克彦	心身症外来	アレルギー外来	アレルギー外来 (第4週休診)	山田 克彦	乳幼児健診
		犬塚 幹	心身症外来 (第2,第4週)	犬塚 幹	神経外来 (第1週休診)	犬塚 幹		犬塚 幹	神経外来	犬塚 幹	生活習慣病外来 (隔週)
泌尿器科	新患	徳永 亨介	※		※	徳永 亨介			※	徳永 亨介	※
	再診	南 祐三		徳永 亨介		南 祐三	南 祐三 (前立腺)	徳永 亨介		南 祐三	
眼科				上松 聖典 (非)							
耳鼻咽喉科		大里 康雄	※	大里 康雄	※	大里 康雄	大里 康雄	大里 康雄	※	大里 康雄	※
放射線科		平尾 幸一	平尾 幸一	平尾 幸一	平尾 幸一	平尾 幸一	平尾 幸一	平尾 幸一	平尾 幸一	平尾 幸一	平尾 幸一
		堀上 謙作 末吉 真	堀上 謙作 末吉 真	堀上 謙作 末吉 真	堀上 謙作 末吉 真	堀上 謙作 末吉 真	堀上 謙作 末吉 真	堀上 謙作 末吉 真	堀上 謙作 末吉 真	堀上 謙作 末吉 真	堀上 謙作 末吉 真
放射線治療計画						山崎 拓也	山崎 拓也				
救急総合診療部☆	内科系	本田 智大 永松 雅朗	二里 哲朗	森 良孝	担当医	加茂 泰広	松本 耕輔	赤司 良平 本田 智大	荒牧 俊幸	福田 紘介	小林 奨
	外科系	担当医	担当医	担当医	担当医	担当医	担当医	担当医	担当医	担当医	担当医
メモリークリニック (もの忘れ外来)		井手 芳彦		井手 芳彦		井手 芳彦		井手 芳彦			井手 芳彦
専門外来	インターフェロン		木下 昇 14:00~16:00 (新患・紹介のみ)								
	ベースメーカー		木崎 嘉久 中尾功二郎 14:00~16:00 (第2,第4)								
	乳腺		佐々木伸文 14:00~17:00 (第2,第4)				碓 秀樹 14:00~17:00				佐々木伸文 13:30~16:30
	ストーマ			重政 有 14:00~16:00 (第2火曜日)							
	禁煙			菅村 洋治 13:30~15:30							
	ステントグラフト			谷口真一郎 13:00~14:00							
	下肢静脈瘤							柴田隆一郎 14:00~15:00			
	CAPD										
	睡眠時無呼吸外来				近藤 英明 13:00~16:00 (隔週)						
	緩和医療	國崎 忠臣 (非)				國崎 忠臣 (非)					
健康増進センター	寺園 敏昭	寺園 敏昭	寺園 敏昭	寺園 敏昭	寺園 敏昭	寺園 敏昭	寺園 敏昭	中尾 治彦		中尾 治彦	
	本多 幸	本多 幸	本多 幸	本多 幸	本多 幸	本多 幸	本多 幸	寺園 敏昭		寺園 敏昭	
	板倉 英世	板倉 英世	野々下晃子	野々下晃子	山本美保子	山本美保子	山本美保子	本多 幸		本多 幸	
	田中 伴典 橋迫美貴子 (交互隔週)	田中 伴典 橋迫美貴子 (交互隔週)	板倉 英世	板倉 英世							
乳がん検診	佐々木伸文		高村 祐磨	高村 祐磨	佐々木伸文	佐々木伸文	碓 秀樹		濱田 聖暁		
健診婦人科(特別顧問外来)	石丸 忠之	石丸 忠之	石丸 忠之	石丸 忠之	石丸 忠之	石丸 忠之	石丸 忠之	石丸 忠之	石丸 忠之	石丸 忠之	

※:主に手術・検査の予定ですが、予定が無い場合は診察いたしますので  
受診ご希望の方は予約をお願いいたします。

●:当番医 ☆:救急部24時間体制

土曜日は、休日診療体制とさせていただきます。

Dept. of Respiratory Medicine

# 呼吸器内科

肺や縦隔、胸壁の疾患の患者さんを対象に、診断および内科的な治療を行っています。

■診療担当医 ※2014年7月31日現在



診療部長  
**副島 佳文**  
(そえじま よしふみ)  
2014年4月就勤

鹿児島大学 昭和58年卒  
日本内科学会総合内科専門医、日本呼吸器学会指導医  
日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡指導医  
がん治療認定医、日本医師会認定産業医



副部長  
**小林 奨**  
(こばやし つとむ)

長崎大学 平成11年卒  
医学博士  
日本内科学会認定内科医  
ICD(インフェクション・コントロールドクター)



医長  
**田中 章貴**  
(たなか あきたか)  
2014年3月退職  
北松中央病院へ異動

長崎大学 平成16年卒  
日本内科学会認定内科医

## 診療内容

診療している主な疾患は以下のとおりです。

**呼吸器感染症**(かぜ症候群、急性気管支炎、肺炎、誤嚥性肺炎、肺化膿症、肺結核、非結核性抗酸菌症、肺真菌症等)

**慢性閉塞性肺疾患**(肺気腫、慢性気管支炎)

**アレルギー・免疫疾患**(気管支喘息、好酸球関連肺疾患、膠原病合併肺疾患、サルコイドーシス等)

**間質性肺疾患**(間質性肺炎「肺線維症」、過敏性肺臓炎、塵肺等)

**肺腫瘍**(原発性肺がん、転移性肺がん、肺良性腫瘍、中皮腫等)

**気管支拡張症**

**びまん性汎細気管支炎**

**慢性呼吸不全**(在宅酸素療法等)

**慢性咳嗽**

## 診療実績

入院は主に5階西病棟で診療しています。しかし、入院患者数の増加に伴いその他の病棟で診療する機会が増えています。専門性の高い疾患が多いため、新病棟竣工後は一つの病棟で管理できるようになることを希望しています。入院で最も多い疾患は肺炎です。特に誤嚥性肺炎は多く、当科以外の内科の医師にも診療していただいている状況です。もう1人常勤の医師がいればカバーできますが、現時点で全てを受け持つことは困難です。また、肺がんも増加しております。一般的に呼吸器内科では肺がんの入院患者さんが半数を占めることが稀ではないことから、今後も増加することが予想されます。結核に関しては入院後判明したものは少なく、前もって

疑い隔離していたか排菌陰性例(治療導入後、肺外結核)が多数であり感染伝播を未然に防ぐことができます。

外来は月曜日、火曜日、木曜日の午前中です。しかし、外来患者数の増加に伴い午後まで外来延長することが常態化しており、午後枠を設ける必要が出てきています。

結核の症例も少なくないため十分な注意が必要です。現在、結核疑いの症例は通常外来での診療ではなく、相談室を利用し他の患者さんから隔離しています。新病棟竣工後は感染症外来で診療可能となる予定であり、空気感染する結核への防御がより高まります。

## ■主な診療実績

(入院)

	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年
入院延患者数	2,220名	7,640名	7,927名	8,088名	8,356名
実入院患者数	116名	423名	380名	397名	402名
退院患者数	109名	416名	376名	389名	414名
(当科/全科)	(1.96%)	(6.98%)	(6.70%)	(7.01%)	(7.11%)
平均在院日数	20.9日	17.4日	21.1日	21.1日	21.8日
気管支鏡症例数	122件	403件	260件	221件	372件

(外来)

	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年
外来新患者数	140名	296名	312名	297名	275名
外来再来患者数	727名	1,732名	2,183名	2,353名	2,496名

Dept.of Endocrinology

# 内分泌内科

バセドウ病や橋本病などの女性に多い甲状腺疾患の診療を行っています。

■診療担当医 ※2014年7月31日現在



非常勤  
**大財 茂**  
(おおたから しげる)

長崎大学 昭和52年卒  
医学博士  
日本内分泌学会内分泌代謝科専門医  
日本東洋医学認定専門医

非常勤  
**藤山 薫**  
(ふじやま かおる)

長崎大学 平成元年卒  
医学博士



非常勤  
**安部 恵代**  
(あべ やすよ)

長崎大学 平成6年卒  
医学博士  
日本内科学会認定内科医

## 診療内容

内分泌内科は甲状腺、副甲状腺、下垂体、副腎、骨粗しょう症を含む骨カルシウム代謝疾患を対象として診断・治療を行っています。

甲状腺疾患は頻度が多く、診療の中心になっています。バセドウ病や橋本病などの自己免疫性甲状腺疾患

は若年から中年女性に多い疾患で、妊娠・出産時は重点的管理を行います。甲状腺がんでは超音波検査や細胞診を行っています。内分泌疾患診断のため、必要に応じてCTあるいはMRI検査に加え、RI検査で甲状腺、副甲状腺、副腎シンチグラムも行っています。

## 診療実績

診療体制は、非常勤医師3名で対応しています。大財は耀光リハビリテーション病院院長を兼務し、毎週木曜日の午後に外来診療を当院にて行っています。藤山は毎週金曜日に午前中に内分泌、午後は骨代謝疾患を中心に診療を行っています。また、安部は月に1度、第2木曜日に長崎大学病院より来院し、外来診療を行っています。

### 超音波(甲状腺)件数

医師名	件数
大財 茂	216
藤山 薫	60
安部 恵代	10
計	286

Dept. of Neurology

# 神経内科

パーキンソン病や多発性硬化症など神経難病の専門的診断・治療を実施しています。

■診療担当医 ※2014年7月31日現在

副院長・診療部長  
**竹尾 剛**  
(たけお こう)長崎大学 昭和59年卒  
医学博士  
日本神経学会認定専門医・指導医  
日本内科学会認定内科医  
日本医師会認定産業医非常勤  
**中村 龍文**  
(なかむら たつふみ)

2014年6月就勤

長崎大学 昭和53年卒  
長崎国際大学人間社会学部 社会福祉学科 教授  
日本内科学会認定医  
日本神経学会専門医・指導医非常勤  
**吉村 俊朗**  
(よしむら としろう)

2014年5月退職

長崎大学 昭和51年卒  
医学博士  
長崎大学 医歯薬学総合研究科 教授  
日本神経学会認定専門医・指導医  
日本内科学会認定内科医

## 診療内容

頭痛、めまい、手足のしびれ・震え・脱力、歩行障害、意識障害などの診断と治療が専門です。

問診は特に重要で、症状の変化から病気の種類を推定します。発症してからピークに達するまでの時間により病気の種類が予測できます。脳梗塞などの血管障害ならば数分以内に症状が完成することが多く、脊髄小脳変性症やパーキンソン病などの変性疾患では数年以上かけて徐々に悪化することが多いといったように、病気の種類によって、臨床経過が異なり、診断の上で、大きなヒントとなります。

次に、神経学的な診察を行い、病気の責任病巣の場所を推定します。脳神経領域や運動系・感覚系、深部腱反射・病的反射などを系統的に診察し、どこに病変があるのかを絞り込みます。

このようにして、病気の種類と場所がわかれば、ほとんどの疾患を診断することができます。

上記で得られたベッドサイドの診断を裏付けるために、MRI・CTなどの画像診断や、神経伝導検査・筋電図・脳波などの生理検査、あるいは筋生検・神経生検といった病理検査などの、必要な検査を行って、確定診断に導き、治療に繋げていきます。

## 診療実績

吉村の外来診療は、新患・再来ともに、毎週木曜日の午前中で、残りの月・火および金曜日の午前中は竹尾の再来、毎週水曜日の午前中は、竹尾の新患外来となっています。

常勤医は1名のため、オンコール体制は採用していませんが、緊急時には連絡可能な体制を採っています。

新患紹介の予約は連携センターで対応しています。

神経内科の特徴は、緊急を要する疾患が比較的少ないのに対し、難病や希少疾患が多いといった点が挙げられます。このため、一般内科に比べると、一人ひとりの診察に要する時間が長く、紹介していただいてから、実際に診察に至るまでのタイム・ラグが長いといったご意見

も開業医の先生方から伺いますが、上記のような特徴をご理解いただき、予約診療にご協力いただきたいと思います。

また、難病の特性上、様々な身体機能障害を有する症例が多く、同じく白十字会に所属する耀光リハビリテーション病院と提携して、専門的な理学療法・作業療法のみならず、嚥下・言語障害や高次脳機能障害に対するリハビリテーションをシームレスに行うことを心がけています。

2011年には、日本神経学会より準教育施設に認定され、研修医をはじめとした若手ドクターの教育にも、携わっていきたくと考えています。

## ■主な診療実績(入院患者)

・脳血管障害	17名
・神経変性疾患	
パーキンソン病	9名
脊髄小脳変性症	4名
多系統萎縮症	2名
不随意運動疾患	2名
筋萎縮性側索硬化症	1名
脊髄性進行性筋萎縮症	1名
その他のパーキンソニズム	1名
・認知症性疾患	
レビー小体型認知症	4名
アルツハイマー型認知症	3名
その他	7名
・てんかん	14名
・自己免疫性中枢神経疾患(MS、NMO、脊髄炎など)	5名
・末梢神経疾患(GBS、CIDPなど)	6名
・神経感染症	6名
・筋疾患(筋炎、ジストロフィーなど)	5名
・内科疾患・代謝性疾患に伴う神経障害	4名
・めまい	3名
・頭痛	2名
・脊髄疾患	1名
・その他	
精神疾患	12名
感染症(肺炎、尿路感染症など)	12名
薬物中毒	2名
整形外科的疾患	2名
その他	4名

## ■臨床検査実施件数

脳MRI・MRA	148件
脊椎(頸椎・胸椎・腰椎)MRI	65件
神経伝導検査	56件
脳波	42件
脳CT	25件
MIBG心筋シンチ	14件
脳血流SPECT	13件
筋生検	7件
針筋電図	4件

## 認定施設

日本神経学会認定准教育施設



Dept. of Arthritis and Lupus Center

# リウマチ・膠原病センター

関連診療科と連携して全身的な診断・治療を実施しています。

## ■診療担当医 ※2014年7月31日現在



常務理事  
臨床研修・研究統括部長  
**植木 幸孝**  
(うえき ゆきたか)

長崎大学 昭和56年卒  
医学博士  
長崎大学臨床教授  
日本内科学会認定内科医  
日本内科学会認定総合内科専門医  
日本リウマチ学会専門医・指導医・評議員  
日本透析医学会専門医・指導医  
日本アフェリシス学会認定専門医  
九州リウマチ学会評議員



センター長  
**寺田 馨**  
(てらだ かおる)

長崎大学 昭和60年卒  
医学博士  
長崎大学臨床教授  
日本内科学会認定内科医  
日本リウマチ学会専門医



副部長  
**荒牧 俊幸**  
(あらまき としゆき)

長崎大学 平成13年卒  
日本内科学会認定内科医  
日本リウマチ学会専門医



医員  
**福田 紘介**  
(ふくだ こうすけ)  
2014年4月就勤

長崎大学 平成23年卒



非常勤  
**一瀬 邦弘**  
(いちのせ くにひろ)

長崎大学 平成12年卒  
医学博士  
日本内科学会認定内科医  
日本リウマチ学会専門医  
日本腎臓学会専門医



非常勤  
**岩本 直樹**  
(いわもと なおき)

長崎大学 平成14年卒  
医学博士  
日本内科学会認定内科医



医員  
**梅田 雅孝**  
(うめだ まさたか)  
2014年3月退職  
長崎大学病院へ異動

長崎大学 平成22年卒  
日本内科学会認定内科医

## 診療内容

関節リウマチ、膠原病、および膠原病類縁疾患の患者さんを対象に、診断および内科的治療、さらにはよりよい治療法の開発に向けた研究活動を行っています。

診療している主な疾患は右記のとおりです。

＜リウマチ疾患＞関節リウマチ

＜膠原病＞全身性エリテマトーデス、強皮症、皮膚筋炎、多発性筋炎、血管炎症候群など

＜膠原病類縁疾患＞ベーチェット病、シェーグレン症候群、リウマチ性多発筋痛症など

## 診療実績

関節リウマチをはじめとする膠原病は、日本リウマチ学会・アメリカリウマチ学会・ヨーロッパリウマチ学会の分類基準により行うのが標準となっていますが、鑑別すべき疾患が多く注意深く鑑別することが必要で、最初に診断できなくても、経過観察を継続することで診断に至ることがあります。一般に経過が長く、増悪・寛解を繰り返すので、現時点だけでなく長期的な視野に立って治療を考える必要があり、患者さん自身の意見を尊重する必要があります。すなわち、予後と治療法の選択、治療の費用、副作用の情報を適切に伝え、患者さん自身の意向を勘案しながら治療法を選択する必要があります。また、疾患あるいは治療薬に関係する合併症も多くみられます。

従って、リウマチ・膠原病センターでは、以下の点を診療科の目標としています。

- ① 診断および治療の適用・開始を的確に行う。
- ② 治療効果の判定、経過観察を適切に行う。
- ③ 疾患あるいは治療薬に関係する合併症の出現に注意し、出現時は、速やかに適切に対処する。
- ④ スタッフ（看護師・理学療法士・薬剤師・栄養士・ソーシャルワーカー・事務職など）と協力し、日常生活上の注意、物理・作業療法、社会福祉的な支援（特定疾患・身体障害者・介護保険の申請など）を行う。

特に、関節リウマチは近年、画期的な治療である生物学的製剤の登場で治療法が大きく変わっています。しかし、基礎疾患のため使用できない場合、生物学的製

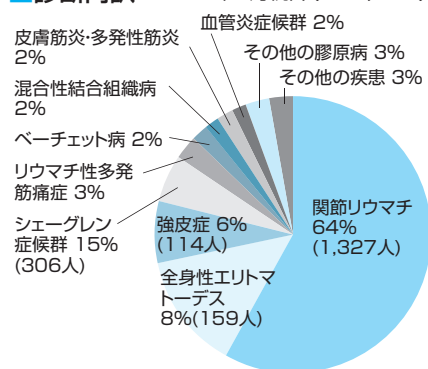
剤を使用しても十分な効果が出ない場合、生物学的製剤の副作用のため使用継続が困難である場合、生物学的製剤が高額のため経済的に使用できない場合などがあり、本当の意味で画期的とはいええない状態です。従って、生物学的製剤およびそれ以外の治療法の適応方法・開発が期待されます。今後もリウマチ膠原病疾患を中心に、佐世保市・県北の医療に貢献していきたいと思えます。

## ■ 診断内訳

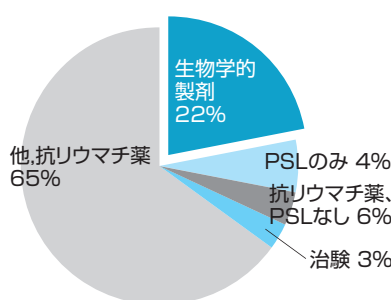
当リウマチ・膠原病センターはおよそ2,000名のリウマチ・膠原病の患者さんを専門外来で診療しています。新患は年間約600名で、佐世保市、長崎県北部のみならず、島原など県南部からも紹介を受けています。最近は、関節リウマチの診断・治療が急速に進み、早期リウマチの患者さんの紹介が急増しています。さらに2003年から導入された生物学的製剤により、リウマチの治療は痛みを抑える時代から、その進行を抑える時代、そして進行を止め、場合によっては関節破壊を修復するような激動の時代に突入しています。

当院では、全リウマチ患者さんの約22%に生物学的製剤を使用しています。遠方からたくさんの患者さんが受診されているため、地域の先生方と県北リウマチネットワークを作り、リウマチの地域連携をすすめています。

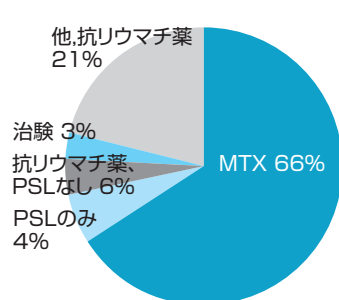
■ 診断内訳 2014年1月統計 (N=2,066)



■ 生物学的製剤使用状況 (関節リウマチ患者=1,327人)



■ MTX使用状況 (関節リウマチ患者=1,327人)



## 認定施設

日本リウマチ学会認定教育施設

Dept. of Diabetes Center

# 糖尿病センター

糖尿病患者の自己管理を専門チームが支援しています。

**■診療担当医** ※2014年7月31日現在**センター長**  
**松本 一成**  
(まつもと かずなり)長崎大学 昭和62年卒  
医学博士  
長崎大学臨床教授  
日本糖尿病学会専門医・指導医  
日本内科学会認定内科医  
臨床コーチング研究会認定コーチ**副部長**  
**森 良孝**  
(もり よしたか)長崎大学 平成12年卒  
日本内科学会認定内科医  
日本透析医学会専門医  
日本腎臓学会腎臓専門医**医長**  
**森 芙美**  
(もり ふみ)長崎大学 平成17年卒  
日本内科学会認定内科医**医員**  
**二里 哲朗**  
(にい てつろう)  
2014年4月就勤

久留米大学 平成24年卒

**非常勤**  
**藤島 圭一郎**  
(ふじしま けいいちろう)  
2014年4月退職  
名古屋記念病院へ異動藤田保健衛生大学 平成13年卒  
日本糖尿病学会専門医  
日本内科学会認定内科医  
日本糖尿病学会研修指導医

## 診療内容

かかりつけ医から紹介された患者さんや、健康診断で糖尿病が疑われた患者さん(メタボリックシンドロームも含む)、あるいは糖尿病そのものや合併症がコントロールできていない患者さんなどを対象にしています。糖尿病の診断、食事療法・運動療法を実行するための支援、糖尿病薬やインスリンによる治療、合併症の管理など、糖尿病専門機関でしかできないような診療を行っています。一方でかかりつけ医と地域連携システムを構築し、地域連携パス「佐世保ブルーサークル」を運用しています。通常の治療はかかりつけ医で行い、専門的な教育や検査は専門施設である当院で行うことになり、医療資

源を最大限に生かす有用な方法です。

糖尿病の理想的な治療は、できるだけ正常に近くなるように血糖値をコントロールして合併症を防止することです。そのためには、患者さん自身による「自己管理」が大切です。当院では、患者さんの自己管理を支援するために専門チームを結成し、「教育入院(2週間)」、「検査入院(1泊2日)」、「腎症教育入院(4泊5日)」、「持続血糖モニター入院(3泊4日)」、「栄養看護外来」の5つのコースを運営しています。なかでも教育入院の成績は大変良好であり、退院後多くの患者さんがHbA1c(NGSP値)7%未満を達成されています。

## 診療実績

糖尿病センターでは毎月およそ1,400名の糖尿病患者さんを専門外来にて診療し、年間およそ100名の糖尿病教育入院に携わっています。新患は年間およそ

300例で、長崎県内では最も充実した糖尿病学会認定教育施設です。常勤医は松本医師・森良孝医師・森芙美医師の3名です。また非常勤医の藤島医師とあ

わせて4名で診療しています。看護師、管理栄養士、薬剤師、理学療法士、臨床検査技師など専門性の高いメディカルスタッフも大いに活躍しており、大変素晴らしいチーム医療が実践されています。例えば、看護師は糖尿病性壊疽を未然に予防する「フットケア」の実践を行っています。また、管理栄養士も毎日栄養指導を行っています。医師、看護師、管理栄養士による「透析予防指導」も開始しました。診療のみならず学術的な分野でも毎年、学会や論文など多くの糖尿病診療に関する重要な知見を継続して発表しています。その分野は多岐にわたっており、糖尿病療養指導、腎症、動脈硬化、コーチ

ングなど幅広い発表内容になっています。

「共感的に患者さんの言葉を傾聴する」、「わかるまで繰り返し情報提供を続ける」、「どうなりたいのか具体的に質問する」、当たり前のことと思われがちですが、実際にできている施設は少ないと思います。患者さんの自主性を支援することをエンパワーメントといいますが、このことを実践するために、糖尿病の基礎知識や最新の情報を整理して患者さんに理解しやすい資料を作成しています。また、医療者と患者さんの双方向性のコミュニケーションを促進するためのコーチングにも磨きをかけています。

### ■糖尿病教室

- 月・森芙美／栄養士
- 火・栄養士 理学療法士
- 水・松本／栄養士
- 木・栄養士 看護師
- 金・森良孝／栄養士 臨床検査技師

### ■主な診療実績

2013年度新患数	298名
月平均受診者数	950名
平均HbA1c	7.4%

### ■クリニカルインディケーター(薬物療法患者対象)

		第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年間
		(4・5・6月)	(7・8・9月)	(10・11・12月)	(1・2・3月)	
2013年度		33.31%	33.00%	29.09%	22.74%	29.58%
	HbA1c<6.9%	395	384	329	256	
	全体	1,186	1,157	1,131	1,126	
		53.79%	53.15%	49.69%	42.18%	49.71%
	HbA1c<7.4%	638	615	562	475	
	全体	1,186	1,157	1,131	1,126	
		80.35%	80.03%	76.04%	72.65%	77.27%
	HbA1c<8.4%	953	926	860	818	
	全体	1,186	1,157	1,131	1,126	
		91.40%	90.92%	90.54%	87.92%	90.20%
	HbA1c<9.4%	1,084	1,052	1,024	990	
	全体	1,186	1,157	1,131	1,126	

## 認定施設

日本糖尿病学会教育施設

Dept. of Cardiology

# 循環器内科

急性心筋梗塞をはじめ循環器疾患にオンコール体制で365日・24時間対応しています。

**■診療担当医** ※2014年7月31日現在副院長・診療部長  
**木崎 嘉久**  
(きざき よしひさ)長崎大学 昭和59年卒  
日本内科学会認定内科医・認定総合内科医・指導医  
日本循環器学会認定専門医  
日本心血管インターベンション治療学会認定医・指導医  
同九州地方会運営委員  
日本高血圧学会専門医・指導医  
日本医師会認定産業医  
長崎県急性心筋梗塞検討委員会 委員部長  
**中尾 功二郎**  
(なかお こうじろう)長崎大学 平成2年卒  
医学博士  
日本内科学会認定内科医・総合内科専門医  
日本循環器学会認定専門医  
日本不整脈学会・日本心電学会認定不整脈専門医医長  
**赤司 良平**  
(あかし りょうへい)宮崎大学 平成18年卒  
日本内科学会認定内科医医員  
**本田 智大**  
(ほんだ ともひろ)

佐賀大学 平成22年卒

非常勤  
**矢野 捷介**  
(やの かつすけ)長崎大学 昭和41年卒  
医学博士  
長崎国際大学 健康管理学部長  
長崎大学医学部名誉教授  
日本老年医学会認定老年病専門医・指導医  
日本循環器学会認定専門医・日本内科学会認定内科医

## 診療内容

狭心症や心筋梗塞などの虚血性心疾患、高血圧症、不整脈など、心臓疾患や循環器疾患を対象に、心臓超音波検査、心臓カテーテル検査（緊急対応可）や64列MDCT（マルチスライスCT）を使用して、冠動脈、大血管などの評価、心臓核医学検査など専門的な診断および治療を行っています。急性心筋梗塞には常時オンコール体制で365日・24時間対応しています。診療している主な疾患は次のとおりです。

〈虚血性心疾患〉急性心筋梗塞、狭心症 など  
 〈高血圧症〉本態性高血圧症、二次性高血圧症 など  
 〈不整脈〉頻脈性不整脈、徐脈性不整脈、心房細動 など  
 〈心臓弁膜疾患〉僧帽弁膜症、大動脈弁膜症や先天性心疾患 など  
 〈心臓心筋疾患〉心膜炎、心筋炎、心筋症 など  
 〈血管疾患〉大動脈瘤、閉塞性動脈硬化症 など

## 診療実績

外来診療は平日午前中に新患、再来各1名で行い、専門外来としてペースメーカー外来を第2および第4月曜午後に実施しています。平日午後には血管インターベンション加療（PCI）やカテーテルアブレーション加

療（ABL）などの各種検査と治療を中心に診療しています。新患紹介や冠動脈CTA検査などの予約は連携センターで対応しており、また、メディカルネット99からの直接予約も可能となっています。

救急受入れは、平日日勤帯は常時対応しています。時間外は内科系当直の対応となりますが、急性心筋梗塞や重症心不全症例など緊急治療を要する場合は、循環器内科当番医(オンコール)で加療しています。緊急心臓カテーテル検査も24時間常時実施可能です。

心臓リハビリテーション指導士による運動療法やPCIや末梢血管形成術(PTA・PTR)、不整脈加療としてペースメーカー加療、ABL、心臓再同期療法(CRT)と難治性・致死性不整脈疾患へ植込み型除細動器(ICD)、両者を併せた両室ペースング機能付除細動(CRT-D)治療、他に大動脈内バルーンポンプ(IABP)や経皮経管的心肺補助システム(PCPS)による補助循環システムを利用した加療を実施しています。多科連携での血管内カテーテル治療となる大動脈STENT,graft留置(EVAR・TEVAR)、頸動脈狭窄へのSTENT加療(CAS)なども施設基準制定を受けて加療を行っています。

地域医療連携の一環としてAMI・PCI地域連携パスを2006年5月より稼働、2014年3月までに地域医療機関85施設(病院15 医院・診療所70施設)との間で、延べ294症例で運用しています。

## ■主な診療実績 2013年(1/1-12/31)

心エコー図検査	2,840例
心臓カテーテル検査	397例
大動脈CT	327例
心臓CT(冠動脈CTA)	281例
心筋シンチ	170例
心血管インターベンション加療	168例
体内式ペースメーカー植込み(CRT・ICD含む)	63例
末梢血管インターベンション加療	48例
年間入院数	546名

(うち急性心筋梗塞47名)

## ■循環器関連機器

・心エコー図装置	4台
Toshiba社製 Aplio(腹部・表在血管など汎用型)	
GE社製 vivid i	GE社製 vivid E9
・64列 MDCT	1台
PHILIPS社製 Brilliance64	
・血管造影装置	2台
PHILIPS社製 Arura(汎用型) Clarity FD 20/20	
Toshiba社製 Infinix Celeve-i INFX-8000C	
・負荷 ECG装置	
エルゴメータ	1台
トレッドミル	1台
・RI装置	1台
・MRI	1.5T 1台
	3.0T 1台(心血管 MRA対応可)

## 認定施設

- ・日本循環器学会認定教育施設
- ・日本心血管インターベンション治療学会認定教育施設
- ・日本不整脈学会・日本心電学会認定不整脈専門医研修施設
- ・日本高血圧学会認定研修施設
- ・両心室再同期療法・植込み型除細動器治療(CRT-D)実施認定施設
- ・胸部-腹部大動脈STENT留置(EVAR・TEVAR)
- ・心大血管疾患リハビリテーション認定(I)

## 施設対応

- ・Medtonic製MRI対応型ペースメーカー植込み患者MRI検査施設

Dept. of Gastroenterological Endoscopy

# 消化器内視鏡センター

がんの早期発見・早期治療に威力を発揮しています。

## ■診療担当医 ※2014年7月31日現在



副院長・センター長  
**木下 昇**  
(きのした のぼる)

長崎大学 昭和 57年卒  
医学博士  
日本内科学会認定医・指導医  
日本消化器病学会専門医・指導医  
日本消化器内視鏡学会専門医  
日本消化器内視鏡学会九州支部評議員  
日本感染症学会ICD(インфекションコントロールドクター)



診療部長  
**小田 英俊**  
(おだ ひでとし)

長崎大学 昭和62年卒  
医学博士  
日本内科学会認定医・指導医  
日本消化器病学会専門医  
日本消化器内視鏡学会専門医



医長  
**松崎 寿久**  
(まつざき としひさ)

長崎大学 平成14年卒  
日本消化器病学会専門医  
日本肝臓学会専門医  
日本消化器内視鏡学会専門医  
日本内科学会認定内科医



医長  
**加茂 泰広**  
(かも やすひろ)

2014年6月就勤

長崎大学 平成17年卒  
日本内科学会認定内科医  
日本消化器内視鏡学会専門医  
日本消化器病学会専門医  
日本肝臓学会認定肝臓専門医



医員  
**松本 耕輔**  
(まつもと こうすけ)

2014年4月就勤

長崎大学 平成23年卒



医員  
**永松 雅朗**  
(ながまつ まさろう)

2014年4月就勤

熊本大学 平成23年卒



医員  
**山道 忍**  
(やまみち しのぶ)

2014年6月退職  
長崎大学病院へ異動

長崎大学 平成18年卒



医員  
**澤瀬 寛典**  
(さわせ ひろのり)

2014年3月退職  
嬉野医療センターへ異動

熊本大学 平成23年卒

## 診療内容

全機種ハイビジョン対応の上部消化管内視鏡、下部消化管内視鏡を用いて、消化管(食道、胃、十二指腸、小腸、大腸、S状結腸、直腸)と胆嚢、胆管、膵臓に疾患をもつ患者さんのスクリーニング検査と診断および内視鏡的治療を行っています。主な内視鏡的治療は以下のとおりです。

- ・全消化管に対する内視鏡的止血術
- ・食道静脈瘤に対する結紮術
- ・早期食道がんおよび早期胃がんに対するESD(内視鏡的粘膜下層剥離術)
- ・大腸ポリープ、早期大腸がんに対するESDおよび

EMR(内視鏡的ポリープ切除術)

- ・上部消化管狭窄や胆道悪性腫瘍に対する拡張術胃瘻造設術
- ・異物除去
- ・閉塞性黄疸に対する内視鏡的胆道ドレナージ術
- ・内視鏡的総胆管結石除去術

肝臓病では、ウイルス性肝炎の診断及びインターフェロンを中心とした治療肝細胞がんに対する超音波下、腹腔鏡下エタノール局注療法及びラジオ波焼灼療法を行っています。

## 診療実績

食道、胃、十二指腸に対する上部消化管検査は、年間4,709件(2013年度実績)実施し、うち468件に上記のような内視鏡的治療を行っています。

小腸、大腸、S状結腸、直腸に対する下部消化管検査は、年間1,134件(2013年度実績)実施し、うち約288件に上記のような内視鏡的治療を行っています。

当院は佐世保市指定二次救急輪番病院であり、年間を通して、昼夜を問わず消化管出血などの患者さん

が搬送されてきます。当科では、チーム内でオンコール体制をとり、緊急の症例にも対応しています。

近年の内視鏡による診断・治療手技の飛躍的な進歩により、胃がんや大腸がんは、早期がんの段階で発見できれば、治療することによりほぼ100%完治できるようになっています。異常を自覚したり、健康診断で精密検査を進められた方は、躊躇されることなくできるだけ早いうちに当科を受診されることをおすすめします。

### ■主な診療実績

上部消化管内視鏡検査	4,709件	カプセル型小腸内視鏡検査	10件
下部消化管内視鏡検査	1,134件	内視鏡的胆道治療(ERBD/EST)	173件
上部内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)	50件	超音波内視鏡検査(EUS)	69件
下部内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)	50件	内視鏡的異物除去術	11件
上部内視鏡的粘膜切除術(EMR)	6件	肝生検	9件
下部内視鏡的粘膜切除術(EMR)	238件	ソナゾイド造影エコー	50件
内視鏡的止血術	178件	エタノール局注療法(PEIT)	28件
内視鏡的胃瘻造設術(PEG)	15件	ラジオ波焼灼療法(RFA)	
内視鏡的拡張術	23件	インターフェロン治療導入	12件
内視鏡的静脈瘤結紮術(EVL)	12件	B型肝炎核酸アナログ導入	4件

## 認定施設

- ・日本消化器内視鏡学会指導施設
- ・日本消化器病学会認定施設



Dept. of artificial dialysis Center

# 人工透析センター

血液浄化療法を導入し、免疫性疾患の治療にも対応しています。

**■診療担当医** ※2014年7月31日現在

常務理事  
臨床研修・研究統括部長  
**植木 幸孝**  
(うえき ゆきたか)

長崎大学 昭和56年卒  
医学博士  
長崎大学臨床教授  
日本内科学会認定内科医  
日本内科学会認定総合内科専門医  
日本リウマチ学会専門医・指導医・評議員  
日本透析医学会専門医・指導医  
日本アフェレンス学会認定専門医  
九州リウマチ学会評議員



医長  
**森 篤史**  
(もり あつし)  
2014年4月就勤

長崎大学 平成15年  
日本内科学会認定内科医  
日本透析学会専門医  
日本腎臓学会専門医



非常勤  
**林 和歌**  
(はやし わか)

長崎大学 平成8年卒  
医学博士  
日本内科学会認定内科医  
日本内科学会認定総合内科専門医  
日本腎臓学会腎臓専門医  
日本透析医学会専門医



診療部長  
**浪江 智**  
(なみえ さとる)

2014年3月退職  
川富内科病院へ異動

長崎大学 昭和62年卒  
医学博士  
日本透析医学会専門医

## 診療内容

腎臓疾患や自己免疫疾患などの患者さんを主な対象に、専門的な診断および血液透析や血漿交換など、血液浄化装置を用いて各種専門治療を行っています。診療している主な疾患は右記のとおりです。

〈腎臓疾患〉ネフローゼ症候群、急性糸球体腎炎、慢性糸球体腎炎、腎性高血圧、糖尿病性腎症、

〈自己免疫疾患〉関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、血管炎、潰瘍性大腸炎など

## 診療実績

常時80人以上の維持透析を行い、また、透析導入やあらゆる急性血液浄化療法にも対応しています。

2012年度に全国で維持透析導入された患者数は38,165人を超え、また維持透析患者数も309,900人を超えました。また、導入時平均年齢は男性が67.63歳、女性は70.12歳、全体の平均年齢は68.44歳、当院においても男性66.7歳、女性76.4歳、全体では69.7歳と

導入患者さんの高齢化が進んでいます。また、20年以上透析患者数は全国で23,283人と、前年度と比べ880人増加し、全透析患者の中の7.8%を占め、長期透析患者さんの増加傾向が明らかとなっています。

透析患者さんの高齢化、維持透析の長期化に伴い、アミロイドーシスや透析性骨症といった透析患者さん特有の合併症に加え、脳血管障害、心血管障害、悪

性腫瘍などの多岐にわたる合併症を有する患者さんが増加し、それらの診断、治療も重要な位置を占めるようになりました。人工透析センターは、さまざまな科を有する総合病院で行う透析の利点を生かし、専門の他科と連携して、急性期治療が必要な合併症を持つ透析患者さんを受け入れています。脳血管障害や心血管障害、

術後などでCHDFを施行した回数は2012年度88回、2013年度99回、膠原病や肝疾患、消化器疾患を対象とした血漿交換やLCAP等の特殊血液浄化療法の施行もそれぞれ124回、99回と急性期の血液浄化療法も積極的に行っています。

## ■主な診療実績

- ・維持透析患者数 ..... 85人  
2014年3月31日現在
- ・維持透析導入患者  
(急性腎不全、術後一時的導入を除く)  
2012年度 ..... 26人  
2013年度 ..... 23人
- ・特殊血液浄化療法施行回数  
(2012年 4月1日～2014年3月31日)延べ回数

	2012年度	2013年度
LCAP	76	64
GCAP	3	0
血漿交換 他	30	24
エンドトキシン吸着	15	11
CHDF	88	99

## 認定施設

日本透析医学会認定施設

Dept. of Surgery

# 外科

専門医による高度の医療を提供する体制を整備。患者さんのQOLを重視した縮小手術も積極的に実施しています。

■診療担当医 ※2014年7月31日現在



理事  
病院長  
**碓 秀樹**  
(いかり ひでし)

長崎大学 昭和58年卒  
医学博士  
日本外科学会専門医  
検診マンモグラフィ読影認定医  
日本消化器外科学会認定医  
日本がん治療認定医機構がん治療認定医  
日本医療マネジメント学会評議員



副院長・手術部長  
**梶原 啓司**  
(かじはら けいじ)

徳島大学 昭和55年卒  
医学博士  
日本外科学会専門医・指導医  
日本消化器外科学会専門医・指導医  
消化器がん外科治療認定医  
日本消化管学会胃腸科認定医



部長  
**重政 有**  
(しげまさ ゆう)

防衛医科大学 平成2年卒  
医学博士  
日本外科学会専門医・指導医  
日本消化器外科学会専門医・指導医  
日本肝胆膵外科学会高度技術指導医・評議員  
消化器がん外科治療認定医  
日本がん治療認定医機構がん治療認定医



診療部長  
**佐々木 伸文**  
(ささき のぶひこ)

宮崎医科大学 昭和62年卒  
医学博士  
日本外科学会専門医  
日本胸部外科学会認定医  
日本消化器外科学会認定医  
日本乳癌学会認定医  
日本がん治療認定医機構がん治療認定医



部長  
**草場 隆史**  
(くさば たかふみ)

長崎大学 平成9年卒  
医学博士  
日本外科学会認定医・専門医



医員  
**濱田 聖暁**  
(はまだ きよあき)  
2014年4月就勤

長崎大学 平成19年卒



医員  
**高村 祐磨**  
(たかむら ゆうま)  
2014年4月就勤

長崎大学 平成23年卒



名誉顧問  
**國崎 忠臣**  
(くにさき ただおみ)

長崎大学 昭和41年卒  
医学博士  
日本外科学会専門医・指導医  
日本消化器内視鏡学会専門医・指導医  
日本緩和医療学会暫定指導医



非常勤  
**菅村 洋治**  
(すがむら ようじ)

新潟大学 昭和42年卒  
日本外科学会認定医  
日本消化器外科学会認定医



非常勤  
**羽田野 和彦**  
(はたの かずひこ)  
2014年6月退職  
佐世保市立総合病院へ異動

長崎大学 昭和62年卒  
医学博士  
日本外科学会認定医・専門医



医員  
**橋本 泰匡**  
(はしもと やすまさ)  
2014年3月退職  
長崎川棚医療センターへ異動

久留米大学 平成19年卒



医員  
**小山 正三郎**  
(おやま しょうさぶろう)  
2014年3月退職  
北九州市立八幡病院へ異動

長崎大学 平成22年卒

## 診療内容

現在7名のスタッフで、あらゆる分野の専門医を取得し、認定施設や若い臨床医の研修・育成の場としての基準を満たしています。

診療面では、専門医による高度の医療を提供するため、肝胆膵外科、消化器・一般外科、乳腺・内分泌外科、呼吸器外科の4つのユニットに分け、それぞれ中心となる担当医を決めて、高度で安全な医療を目指しています。

治療対象の多くはがんなどの悪性疾患で、早期の症例に対しては、QOLを重視した機能温存・縮小手術を、進行がんには手術に化学療法、温熱療法、放射線療法などを組み合わせた集学的治療を行っています。進行がんに対してはdown stagingによる予後の改善を目的とした術前化学療法(NAC)を行う症例が増加しています。

近年、低侵襲手術に重点が置かれるようになり、内視鏡手術や鏡視下手術が増加の傾向にあります。当科における鏡視下手術は1991年という早期に導入し、現在は胆石症などの良性疾患に対しては積極的に腹腔鏡下手術を行い、大腸がんに対しては症例を選択しながら、腹腔鏡下ないし腹腔鏡補助下手術を行っています。胸腔鏡下手術は、自然気胸、肺がんや縦隔腫瘍な

どに対して年間約40例を行っています。自然気胸の患者さんに対しては、術後再発率0%を目標に治療を行っており、それに近い実績をあげています。

年々増加する乳がんに対しては、整容性を重視した乳房温存手術を目指しています。また全摘が必要な症例においては、症例を選んで一次的乳房再建術を行っています。

専門外来として、乳腺外来、ストーマ外来、禁煙外来を午後の時間帯に開設して、患者さんのニーズにこたえています。

研究面では、赤外観察カメラシステム(Photodynamic Eye, PDE)を導入し、乳がん・胃がん・大腸がんを中心にICGの蛍光特性を利用したnavigation surgeryを開始しています。また全国学会をはじめ、各種学会において、研究報告や症例報告を別記のように発表しました。

毎週月曜日に病理、放射線科と合同で抄読会を行い、毎週月・木曜日に術前検討会を、毎週木曜日に消化器内科医を交えて術後検討会を行っています。また毎月1回手術標本の病理検討会を病理医指導の下で行っています。

## 診療実績

当院は救急告示病院で、佐世保市の二次輪番救急指定病院でもあり、緊急患者に対しては24時間対応

で行っており、2013年度は2,059台の救急車を收容し、93例の外科緊急手術を施行しました。

### ■主な診療実績

－手術症例数－

手術総数 580 (全身麻酔 397、腰椎麻酔 103、局所麻酔 79)					
(1)乳腺腫瘍 ・乳がん ・その他(葉状腫瘍等)	72例 64例 8例	(6)胃十二指腸潰瘍(穿孔) (7)小腸疾患 ・イレウス ・腫瘍	5例 26例 20例 1例	(11)胆石症 ・腹腔鏡下 (12)胆嚢腫瘍 ・腹腔鏡下 (13)胆管腫瘍 (14)肝腫瘍(肝切除) ・原発性 ・転移性 (15)脾腫瘍 ・脾頭十二指腸切除	48例 42例 3例 2例 2例 11例 5例 6例 4例 3例
(2)甲状腺腫瘍 ・甲状腺癌 ・その他	5例 3例 2例	(8)大腸腫瘍 ・結腸癌 腹腔鏡下 ・直腸がん ・盲腸がん 腹腔鏡下	74例 50例 12例 15例 9例 2例	(9)大腸良性疾患(穿孔) (10)ヘルニア ・鼠径 ・大腿 ・閉鎖孔 ・腹壁 ・臍	5例 87例 71例 3例 5例 5例 3例
(3)呼吸器 (内 胸腔鏡下手術 43例) ①肺がん ②良性肺腫瘍 ③縦隔腫瘍 ④気胸 ⑤その他	51例 21例 0例 11例 16例 3例	(4)食道がん (5)胃腫瘍 ・胃がん	7例 35例 33例	(内)緊急手術 93(全身麻酔 65、腰椎麻酔 25、局所麻酔 3) ・急性虫垂炎 ・腸閉塞 ・ヘルニア嵌頓	30例 19例 10例
					7例 6例 6例
					5例 10例



## 認定施設

- ・日本外科学会専門医制度修練施設
- ・日本呼吸器外科学会専門医制度関連施設
- ・日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設
- ・日本胸部外科学会専門医制度関連施設
- ・日本ハイパーサーミア学会認定施設
- ・日本消化器外科学会専門医修練施設
- ・日本大腸肛門病学会専門医修練施設
- ・日本救急医学会救急科専門医指定施設
- ・日本乳癌学会関連施設

Dept. of neurosurgery

# 脳神経外科

脳血管障害や頭部外傷に最先端の診断・治療を実施しています。

■診療担当医 ※2014年7月31日現在



副院長・診療部長  
**阪元 政三郎**  
(さかもと せいざぶろう)

福岡大学 昭和60年卒  
医学博士  
日本脳神経外科学会専門医  
日本脳卒中学会専門医  
長崎クモ膜下出血研究会世話人  
長崎県北脳卒中研究会世話人  
長崎県北神経懇話会世話人  
福岡脳卒中連携セミナー世話人  
福岡脳卒中救命セミナー世話人  
福岡脳脊髄治療懇話会世話人  
福岡脳神経先端治療研究会世話人  
福岡大学臨床教授



医長  
**竹本 光一郎**  
(たけもと こういちろう)

福岡大学 平成15年卒  
日本脳神経外科学会専門医  
日本脳神経血管内治療認定医



医員  
**小林 広昌**  
(こばやし ひろまさ)

2013年10月就勤

福岡大学 平成21年卒



医員  
**高原 正樹**  
(たかはら まさき)

2014年4月就勤

福岡大学 平成22年卒



非常勤  
**衛藤 達**  
(えとう とおる)

福岡大学 平成9年卒  
日本脳神経外科学会専門医  
日本脳卒中学会専門医



医員  
**河井 伸一**  
(かわい しんいち)

2013年9月退職  
福岡大学病院へ異動

福岡大学 平成21年卒

## 診療内容

脳や脊髄および末梢の神経にいたるまで、あらゆる神経系の疾患をもつ患者さんを対象に、専門性の高い診断および手術治療ならびに血管内治療を行っています。診療している主な疾患は以下のとおりです。

〈脳血管障害〉くも膜下出血(脳動脈瘤破裂)、未破裂脳動脈瘤、脳出血、脳動静脈奇形、脳梗塞、モヤモヤ病、頸動脈狭窄症など

〈脳腫瘍〉神経膠腫、髄膜腫、聴神経腫瘍、転移性脳腫瘍、下垂体腫瘍など

〈頭頸部外科疾患〉頭部外傷、顔面外傷など

〈脊椎・脊髄疾患〉変形性脊椎症、椎間板ヘルニア、脊髄腫瘍、脊髄動脈奇形など

〈機能的疾患〉顔面痙攣、三叉神経痛など

## 診療実績

1995年大和町へ移転時より脳神経外科が新設され、特に救急での脳血管障害、外傷、さらに脳腫瘍・脊椎疾患等を治療しています。2009年3月には県北部の

地域脳卒中センターに認定され、くも膜下出血、脳出血、脳梗塞等の脳卒中患者を24時間体制で受け入れ、CT、MRI、超音波検査を即時に行うことで、早期診

断・治療を開始できています。最近は脳梗塞患者が増加し、超急性期血栓溶解療法(t-PA)や血管内治療専門医による再開通療法(血行再建術)も増加傾向にあります。

リハビリはPT・OT・STが揃っており、365日休みなしの体制でリハビリを行い、更にロボットスーツHALを用いた最新のリハビリも開始しています。また、脳卒中連携パスを用いて急性期から回復期への患者さんの管理を行うことで連携がスムーズとなり、地域に信頼される脳卒中センターが構築されています。

2009年に手術顕微鏡(Zeiss社OPMI Pentrero)も新しくなり、機能性が向上し、術中蛍光血管造影が可能となり、脳動脈瘤、頸動脈内膜剥離術、バイパス術等で、より安全・確実な治療が可能となりました。また、2011年に神経内視鏡(軟性鏡:オリンパス社、硬性鏡:STORT社)を導入し、低侵襲治療として、脳出血、硬膜下血腫、下垂体、動脈瘤治療等に積極的に使用し

ています。2012年12月より3.0T MRIが導入され、2台のMRIが稼働し、急患対応ならびに、画像診断の向上が図れています。

また、16ch神経生理モニターを購入し、術中モニタリングやICUでの脳波モニタリングで、より安全・確実な治療が可能となり、2013年4月から血管内治療専門医による動脈瘤塞栓術、頸動脈ステント留置術、脳梗塞に対する血行再建術が常時可能となり、2014年6月には最新血管造影機器(フィリップス社)に更新されました。高精細な画像イメージが可能となり、より確実安全な血管内治療が可能となりました。

福岡大学脳神経外科との協力のもと、脳神経外科疾患の全般にわたる治療が可能となり、今後はさらなる脳卒中治療の充実を図るため、院内での教育、脳卒中リハビリテーション認定看護師による患者・家族への指導、地域への啓蒙活動を行い、地域医療に貢献していきたいと思っています。

## ■主な診療実績

(件)

手術名	2011年 1月～12月	2012年 1月～12月	2013年 1月～12月
開頭クリッピング	20	14(SAH 9)	18(SAH 7)
動脈瘤コイリング	2	5(SAH 2)	11(SAH 7)
脳出血開頭血腫除去	8	17	18
脳動静脈奇形摘出	1	0	1
頸動脈内膜剥離術	9	5	6
頸動脈ステント留置術	1	3	13
STA-MCAバイパス	3	3	1
脳腫瘍摘出	9	14	15
急性硬膜外血腫	9	3	2
急性硬膜下血腫	4	9	8
慢性硬膜下血腫	18	36	44
V-Pシャント	4	9	8
頭蓋外(頸動脈省く)血行再建	1	1	0
頭蓋形成術	5	5	3
脳室ドレナージ	3	5	9
外減圧	4	1	2
頸椎前方固定	0	0	0
腫瘍除去	3	1	1
神経血管減圧術	0	0	0
上記以外血管内治療	5	2	12
その他	8	10	26
計	117	143	198

Dept. of Cardiovascular Surgery

# 心臓血管外科

人工心臓使用手術症例が500例に達し、最新機器を導入しました。

■診療担当医 ※2014年7月31日現在



副院長・診療部長・  
救急部長  
**柴田 隆一郎**  
(しばた りゅういちろう)

長崎大学 昭和54年卒  
医学博士  
日本外科学会外科専門医  
日本救急医学会専門医  
日本胸部外科学会認定医  
日本胸部外科学会正会員  
日本胸部外科学会九州地方会評議員  
長崎大学心臓血管外科非常勤講師  
下肢静脈瘤血管内レーザー焼灼術実施医



副部長  
**谷口 真一郎**  
(たにぐち しんいちろう)

長崎大学 平成11年卒  
医学博士  
日本外科学会専門医  
三学会構成心臓血管外科修練指導者  
三学会構成心臓血管外科専門医  
心臓血管外科国際会員  
日本脈管学会認定脈管専門医  
下肢静脈瘤血管内レーザー焼灼術実施医  
ICD(インフェクションコントロールドクター)



医長  
**中路 俊**  
(なかじ しゅん)

長崎大学 平成14年卒  
日本外科学会専門医  
心臓リハビリテーション指導士  
下肢静脈瘤血管内レーザー焼灼術実施医

## 診療内容

24時間緊急に対応できる体制を整え、診療を行っています。また、循環器内科・放射線科の医師と綿密に連絡を取り合い、患者さんに最適な医療を提案しています。私たちは心臓疾患・大血管疾患・末梢血管疾患の外科治療を主に診察しています。

### ①心臓疾患

心臓の病気には数多くの種類がありますが、大きくは生まれつき心臓に異常がある先天性疾患と、生まれた後に病気が生じる後天性疾患に分かれます。例えば先天性疾患には、心臓の壁に穴が開いている心房中隔欠損症や、心室中隔欠損症などがあります。後天性心疾患には心臓を栄養する血管が狭くなったりつまったりする狭心症や心筋梗塞、心臓を仕切る弁膜(大動脈弁・僧帽弁・三尖弁・肺動脈弁)に異常が生じる弁膜症などがあり、それらの病気に対し、冠動脈バイパス術や弁置換術・弁形成術などの外科治療を行っています。特に最近では、高齢者の方々の手術が増加しており、手術侵襲を少なくするために人工心臓を使用しない心拍動下冠動脈バイパス手術を積極的に行っています。

### ②大血管疾患

大血管の病気は血管壁に亀裂が入る大動脈解離と、血管が次第に拡張してくる大動脈瘤などに大きく分かれます。特に、大動脈解離は診療に急を要する場合があります。そのような急を要する病気に対しても、私たちは24時間緊急に対応できる体制を整え診療を行っています。大動脈瘤に関しては動脈瘤を切除して人工血管に取り換える手術が一般的ですが、当院ではステントグラフト内挿術を行うことも可能であり、多くの治療法の提案ができ、その中から最適と思われる治療を受けることが可能です。

#### 〈ステントグラフト治療とは?〉

ステントグラフト治療とはカテーテルで血管内に人工血管を留置する方法で、利点として一般の手術より体への負担は軽減され、入院期間も短縮できます。しかし、動脈瘤の状態で適応が制限されることや治療効果などの問題点があります。個々の症例ごとによく検討する必要がある治療法ですが、今後さらに増加していくと考えられます。



### ③末梢血管疾患

末梢血管疾患は動脈疾患と静脈疾患に分かれます。足の動脈が狭くなったりつまったりする閉塞性動脈硬化症については、下肢バイパス手術や血管の中から風船で治療する血管内治療を行っています。静脈疾患の外科治療では静脈瘤に対して血管エコーを用いて

診療し、手術の際にも血管エコーで静脈瘤の様子をみながら、適切で最小限の皮膚切開を行う方法で、ストリッピング手術や逆流している静脈の内側からレーザーで静脈の壁を焼く「血管内レーザー焼灼術」を行っています。

## 診療実績

手術名	心臓血管外科の実績(手術件数)			
	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度
開心術(OPCAB)	41(7)	38(10)	31(13)	45(11)
胸部大血管(ステントグラフト)	6	6(1)	10(2)	7(3)
腹部大血管(ステントグラフト)	14(3)	13(2)	21(11)	32(10)
末梢動脈	29	18	21	24
末梢静脈(下肢静脈瘤レーザー焼灼術)	59	80	73	145(111)
内シャント造設術	31	28	36	32

## 認定施設

- ・心臓血管外科学会認定修練施設
- ・日本脈管学会認定研修関連施設
- ・胸部・腹部ステントグラフト実施施設
- ・下肢静脈瘤血管内レーザー焼灼術実施施設

Dept.of Dermatology

# 皮膚科

皮膚科は月曜日から金曜日まで毎日午前9:00～12:00まで一般外来診療を行っています。  
午後は検査・外来小手術・院内外来診療・入院患者診療などを行っています。

■診療担当医 ※2014年7月31日現在



副部長

山口 宣久

(やまぐち のりひさ)

福岡大学 平成8年卒

## 診療内容

皮膚科領域全般にわたり診療しています。爪疾患や毛髪疾患、および粘膜疾患(口腔・陰部)の一部も皮膚疾患に含まれます。

湿疹、薬疹、尋常性乾癬、水疱症、じんましん、水虫、

ニキビ、ヘルペス、虫さされ、やけど、切り傷、床ずれなどのほか、皮膚・皮下腫瘍の検査・手術、巻き爪(陥入爪)に対する処置、皮膚症状を伴う糖尿病・膠原病などの内科的疾患に伴う皮膚症状も行っています。

## ■主な検査・治療

### 《検査》

- ・貼付試験(パッチテスト)
- ・皮下腫瘍の診断補助として、ダーモスコピー、エコー、CT、MRI検査などを用いた画像検査
- ・皮膚生検:疾患の診断、病変の深達度を診断するため、病変を含めて皮膚を一部切除します。局所麻酔下に実施しますので、以前に抜歯などの際、局所麻酔で気分が悪くなった方は、予めその旨お教えてください。

### 《治療》

- ・冷凍凝固療法:
- ・光線療法:PUVA- Bath療法:
- ・局所免疫療法: SADBE療法
- ・巻き爪の治療:弾性ワイヤー治療, 陥入爪根治術療法(フェノール法)
- ・男性型脱毛症:当院には飲み薬のプロペシアがありません。(保険適用外)

## 診療実績

### ■患者数

- ・一般外来(入院中外来を除く)..... 4,733人
- ・入院..... 46人

### ■検査件数

- ・皮膚組織試験採取術(皮膚生検)..... 39例

■ 外来手術件数

・皮膚,皮下腫瘍切除術 .....	25例
・皮膚悪性腫瘍切除術 .....	3例

■ 入院手術件数

皮膚悪性腫瘍切除術 .....	4例
皮膚,皮下腫瘍切除術 .....	2例
陥入爪根治術 .....	2例

Dept.of pediatrics

# 小児科

子どもの心と体の健康維持に誠実に取り組みます。

## ■診療担当医 ※2014年7月31日現在



診療部長  
**山田 克彦**  
(やまだ かつひこ)

大分大学 平成2年卒  
日本小児科学会認定小児科専門医  
日本循環器学会認定循環器専門医  
日本小児循環器学会会員  
日本川崎病学会会員  
日本小児アレルギー学会会員



部長  
**犬塚 幹**  
(いぬづか みき)

大分大学 平成6年卒  
日本小児科学会認定小児科専門医  
日本小児神経学会認定小児神経専門医  
日本てんかん学会認定てんかん専門医  
日本外来小児科学会会員

## 診療内容

地域の子どもの心と体のすこやかな成長を支援し、保護者への懇切でいねいな説明を心がけています。

新生児を除く乳児から思春期にかけての小児期発症の内科的疾患を、常勤医2名体制で、地域の先生方からのご紹介患者さんを中心に診療しています。また、

医師の専門性を生かして、小児循環器疾患、小児神経疾患の専門医療を行っています。

「子どもの現代病」とも言われる、心身症や発達障害、食物アレルギー、生活習慣病(肥満)にも正面から取り組んでいます。

## 診療実績

### ■入院

区分	件数
入院延患者数	926
新入院患者数	174

### ■入院患者の内訳

ICD	分類	件数	主な疾患	件数
A-B	感染症および寄生虫症	30	急性胃腸炎	17
D	血液および造血系の疾患並びに免疫機構の障害	3		
E	内分泌、栄養および代謝疾患	18	低身長	5
F	神経および行動の障害	4	運動発達遅滞	2
G	神経系の疾患	14	てんかん	6
I	循環器系の疾患	2	起立性調節障害	2
J	呼吸器系の疾患	68	肺炎	38
K	消化器系の疾患	3		
L	皮膚および皮下組織の疾患	1		
M	筋骨格系および結合組織の疾患	5	川崎病	3
N	腎尿路生殖器系の疾患	6	尿路感染症	4
P	周産期に発生した病態	1		
Q	先天性奇形、変型および染色体異常	1		
R	症状、徴候および異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	2	熱性けいれん	2
T	損傷、中毒およびその他の外因の影響	16	食物アレルギー	10
合計		174		

**■外来**

区 分	件 数
外来延患者数	3,714
初診（新規 ID 取得）患者数	323

**■専門的医療**

区 分	件 数
心身症カウンセリング	175
脳波検査	169
心エコー検査	155
トレッドミル試験	12
経口糖負荷試験（OGTT）	12
経口負荷試験（食物アレルギー）	10
成長ホルモン分泌刺激試験	5

Dept. of urology

# 泌尿器科

基幹病院として「前立腺がん撲滅キャンペーン」に積極的に参加しています。

■診療担当医 ※2014年7月31日現在



部長  
**徳永 亨介**  
(とくなが こうすけ)

金沢医科大学 平成 8年卒  
日本泌尿器科学会認定専門医



非常勤  
**南 祐三**  
(みなみ ゆうぞう)

東京医科大学 昭和53年卒  
日本泌尿器科学会認定専門医・指導医

## 診療内容

男性特有の病気である前立腺疾患をはじめとして、排尿に関係するすべての臓器(腎臓、尿管、膀胱、尿道)の疾患の患者さん(女性・小児を含む)を対象に、診断、治療を行っています。

診療している主な疾患は以下のとおりです。

〈前立腺疾患〉前立腺肥大症、前立腺がん、前立腺炎など

〈尿路結石症〉腎臓結石、尿管結石 膀胱結石、尿道結石など

〈尿路感染症〉腎盂腎炎、膀胱炎、尿道炎など

〈その他〉脳・脊髄障害による神経因性膀胱、尿失禁、勃起障害、腎臓がん、膀胱がん、アルドステロン症・クッシング症候群などの副腎疾患、停留精巣など

日本人の前立腺がんは近年急増しており、この10年間で死亡者数がおよそ2倍になっています。高齢化が進む中であって、患者数はさらに増加することが懸念されています。当科は、国が5ヵ年計画で取り組んでいる「前立腺がん撲滅キャンペーン」に、佐世保の基幹病院として積極的に参加しています。

## 診療実績

全く自分自身の排尿状況と重なることに気づく今日この頃であります。むしろ患者さんの立場での診療ができて有り難く思っております。

当院も地域医療支援病院の資格が与えられ、当科がいかに関与できるかという診療姿勢が問われています。そうとは言え、診療能力(マンパワー)が資格取得後に大幅にアップしたわけではありません。資格取得前と同じマンパワーで、従来よりもさらに地域に貢献できる診療体制を築くためにはいかにあるべきかを考えます。

それを達成できるかどうかは、一つはいかに地域の医療機関と連携できるかが重要な課題であろうことは推察

できます。病診連携は各施設でそれぞれに努力されており、少しずつではありますが結果が出てきている状況です。ただ、病病連携となると、まだまだ各基幹病院間に長年の壁があり、連携がうまくとれず患者さんにご迷惑をおかけするようなことを経験されるのが現状でありましょう。

2013年度は各基幹病院の得意分野や施設基準を踏まえての病病連携を行い、当科が特化できる分野を他の医療機関に認知していただいて、その事を基礎においた地域医療貢献を念頭において活動してきましたつもりですが、まだまだ認知度が低く次年度も頑張る理念達成のための努力を継続する覚悟であります。

## ■主な診療実績

経尿道的膀胱腫瘍切除術 .....	33例	膀胱全摘除術 + 尿路変更術 .....	4例
経尿道的前立腺切除術 .....	10例	その他手術 .....	19例
前立腺がん全摘出術 .....	6例	前立腺生検 .....	64例
腎摘出術 .....	4例		

## 認定施設

泌尿器科専門医教育施設

Dept. of Otolaryngology

# 耳鼻咽喉科

中耳炎や難聴、鼻炎・副鼻腔炎などの専門的診断・治療を実施しています。

■ 診療担当医 ※2014年7月31日現在



部長  
**大里 康雄**  
(おおさと やすお)

長崎大学 平成9年卒  
日本耳鼻咽喉科学会専門医

## 診療内容

2008年4月1日より、耳鼻咽喉科はこれまでの常勤医2名体制から、常勤医1名+非常勤1名(月・金の外来のみ)へ変更となりました。それに伴い、頭頸部腫瘍手術などは、当科では対応できなくなりましたが、それ以外の領域につきましては、従来と同様のサービスを提供できるよう、努力しています。

診療している主な疾患は以下のとおりです。

### <耳疾患>

- ・めまい、難聴などの精査や治療
- ・滲出性中耳炎の治療や、鼓膜チューブ留置術
- ・慢性中耳炎、真珠腫性中耳炎などに対する精査や、鼓膜形成手術・鼓室形成手術
- ・急性中耳炎、耳内異物などに対する処置や治療

### <鼻疾患>

- ・アレルギー性鼻炎に対する精査や、薬物治療・外科的治療など
- ・慢性副鼻腔炎、副鼻腔嚢腫、鼻中隔彎曲症、鼻骨骨折などに対する手術

- ・急性鼻炎、鼻出血、嗅覚障害、鼻腔内異物などに対する処置や治療

### <咽喉頭・頸部疾患>

- ・咽喉頭炎、扁桃炎、唾液腺炎、頸部リンパ節炎など、急性炎症に対する治療
- ・慢性扁桃炎、扁桃病巣感染症、閉塞性睡眠時無呼吸症候群に対する扁桃摘出手術
- ・小児の滲出性中耳炎に対するアデノイド切除術・口蓋扁桃摘出手術
- ・咽頭異物に対する内視鏡下異物摘出術
- ・咽喉頭領域の悪性腫瘍に対する組織検査や放射線治療
- ・嚥下障害の症例に対する嚥下内視鏡検査や、言語聴覚士による嚥下リハビリテーション

## 診療実績

嚥下機能評価(嚥下内視鏡検査) ..... 40例  
 両側口蓋扁桃摘出術 ..... 12例  
 内視鏡下鼻内副鼻腔手術 ..... 11例  
 気管切開術 ..... 5例

鼓室形成術 ..... 3例  
 鼓室形成術 ..... 3例  
 準中隔矯正術 ..... 2例  
 声帯ポリープ切除術 ..... 2例



Dept. of Radiology

# 放射線科

胸腹部の悪性腫瘍治療にハイパーサーミアを積極的に使用しています。

**■診療担当医** ※2014年7月31日現在理事・副院長  
地域医療連携センター長  
医療情報本部長**平尾 幸一**  
(ひらお こういち)長崎大学 昭和56年卒  
医学博士  
日本医学放射線学会診断専門医  
日本医学放射線学会研修指導者  
日本ハイパーサーミア学会認定医  
検診マンモグラフィ読影認定医  
九州・山口ハイパーサーミア研究会世話人

診療部長

**堀上 謙作**  
(ほりかみ けんさく)長崎大学 平成5年卒  
医学博士  
日本医学放射線学会診断専門医  
日本医学放射線学会研修指導者  
検診マンモグラフィ読影認定医

部長

**末吉 真**  
(すえよし まこと)長崎大学 平成8年卒  
日本医学放射線学会診断専門医

非常勤

**山崎 拓也**

(やまざき たくや)

宮崎大学 平成8年卒  
日本医学放射線学会治療専門医  
日本放射線腫瘍学会認定医  
日本がん治療認定医

## 診療内容

**■画像診断業務**

- ・CT、MRI、核医学、血管造影（心臓カテーテル検査、脳血管造影以外）による検査と診断は全て放射線科が行っています。
- ・CT、MRI検査は、地域医療機関に積極的に利用していただいています。（1,676件/年）
- ・当院の特徴の一つは、胸部単純X線写真の読影を行っていることであり、主治医とのダブルチェックの役割を果たしています。
- ・検診マンモグラフィ読影は、マンモグラフィ読影認定医3名（放射線科及び外科）がダブルチェックを行っています。
- ・検診の胸部写真・肺CT・脳MRIは放射線科と健診センター（健診医）がダブルチェックを行っています。
- ・CT、MRI、核医学の報告書は約81%が検査後24時間以内に作成されています。

**■IVR**

- ・血管系IVRは肝腫瘍に対する肝動脈化学塞栓療法が最も多い割合を占めています。
- ・内視鏡的止血が困難な症例に対して消化管出血の動脈塞栓術を実施しています。
- ・非血管系のIVRは胆道系（ドレナージや胆道内瘻化）、膿瘍ドレナージが多くを占めています。
- ・胸腹部大動脈ステント留置術を心臓血管外科と共同で行っています。

**■放射線治療・ハイパーサーミア（温熱療法）**

- ・毎週水曜日に、長崎大学の日本医学放射線学会治療認定医による放射線治療計画を行っています。
- ・地域医療機関より、乳房温存術後や子宮がんの放射線治療依頼を受けています。
- ・他院で化学療法を受けている方でも当院でハイパーサーミア（温熱療法）を受けることが可能です。

## 診療実績

### ■画像診断

胸部単純X線写真読影	9,809件
血管造影検査	232件
CT	12,880件
MRI	6,272件
マンモグラフィ	2,936件
核医学検査	953件

### ■IVR

血管系IVR	
肝動脈化学塞栓療法	44件
消化管出血の塞栓術	3件
リザーバー留置術	3件
透析シャントの血管拡張術	16件
大動脈ステント内挿術	13件
その他	13件
非血管系IVR	
胆道ドレナージ・内瘻化	16件
膿瘍ドレナージ	10件
生検(超音波・CTガイド下)	3件
マーキング(CTガイド下)	2件

### ■放射線治療

乳房	22件
肺	5件
膀胱・前立腺	17件
肝臓・胆道・膵臓	8件
食道	2件
その他	24件

備考:2013年度は放射線治療装置を更新したため、6ヶ月間の治療実績です。

### ■ハイパーサーミア 44件

## 外来診療体制

### ■画像診断業務・血管造影検査・IVR

月～金曜日 8:30～17:30  
 地域医療機関からの検査依頼も上記時間に実施しています。  
 なお救急等の緊急検査依頼は、365日24時間対応しています。

### ■放射線治療

毎週水曜日に、長崎大学の日本医学放射線学会治療専門医による放射線治療計画を行っています。なお、水曜日が祝日の場合には、曜日を変更して放射線治療計画を立てて行います。

### ■ハイパーサーミア

日本ハイパーサーミア学会認定医、臨床工学技士、看護師が共同で治療を実施しています。また、セカンドオピニオン外来も行っています。

## 認定施設

- ・日本医学放射線学会専門医修練機関施設
- ・日本ハイパーサーミア学会認定施設
- ・マンモグラフィ検診施設画像認定施設

Dept. of anesthesiology

# 麻酔科

術中の麻酔管理とICUの管理・運営を行っています。

**■診療担当医** ※2014年7月31日現在

診療部長

**堤 雅俊**

(つつみ まさとし)

長崎大学 昭和62年卒  
麻酔標榜医

部長

**福島 浩**

(ふくしま ひろし)

長崎大学 平成5年卒

## 診療内容

当科はスタッフ2名で術中麻酔管理を主な仕事としており、そのほとんどは全身麻酔症例です。また、ICUにおい

て看護課長・主任と共に管理・運営を行っています。

## 診療実績

2013年の手術症例は1,139例で、全身麻酔症例は718例(うち緊急手術は111例)でした。

各科別では外科376例(緊急50例)・脳神経外科101例(緊急46例)・心臓血管外科191例(緊急15例)・泌尿器科16例(緊急0例)・耳鼻咽喉科33例(緊急0例)でした。

2013年の手術時間では、8時間を超える症例が16例でした。年齢別では、80歳以上の高齢者が116例でした。うち、90歳台が10例でした。

麻酔法はセボフルレン・レミフェンタニルによるバランス麻酔とプロポフォール・レミフェンタニルによる全静脈麻酔

と半々です。また、術後の疼痛管理を考え、積極的に硬膜外麻酔を併用しています。

ICUは10床で運営しており、重症者と術後(全身麻酔後)を受け入れています。

2013年は1,017名の入室があり、稼働率は78.2%で2月が89%と最も高く、11月が70.7%と最も低い稼働でした。内訳は外科373名・脳神経外科298名・心臓血管外科104名・泌尿器科14名・循環器内科123名・一般内科75名・消化器内科28名でした。

Dept. of Pathology

# 病理部

他診療科医と連携して病理診断やカンファレンスを実施しています。

## 診療担当医 ※2014年7月31日現在



診療部長  
臨床検査部長  
**米満 伸久**  
(よねみつ のぶひさ)

長崎大学 昭和56年卒  
医学博士  
日本病理学会病理専門医・研修指導医  
日本臨床細胞学会細胞診専門医・指導医  
日本臨床検査医学会管理医  
死体解剖資格  
ICD(インфекション・コントロールドクター)  
佐賀大学医学部臨床教授  
佐賀大学医学部非常勤講師  
佐世保市医師会看護学校非常勤講師  
Pathology International編集委員

非常勤  
**山崎 文朗**  
(やまさき ふみお)

佐賀医科大学 平成3年卒  
医学博士  
日本病理学会病理専門医・研修指導医  
日本臨床細胞学会細胞診専門医・指導医  
死体解剖資格

非常勤  
**内橋 和芳**  
(うちはし かずよし)

佐賀医科大学 平成11年卒  
医学博士  
日本病理学会病理専門医・研修指導医  
日本臨床細胞学会細胞診専門医・指導医  
日本整形外科学会専門医  
死体解剖資格

非常勤  
**西島 亜紀**  
(にしじま あき)

佐賀医科大学 平成14年卒  
日本内科学会認定内科医  
日本肝臓学会肝臓専門医

非常勤  
**山本 美保子**  
(やまもと みほこ)

佐賀医科大学 平成19年卒

非常勤  
**赤澤 祐子**  
(あかざわ ゆうこ)

長崎大学 平成12年卒  
日本内科学会認定内科医  
日本消化器内視鏡学会専門医  
日本消化器病学会専門医

非常勤  
**三浦 史郎**  
(みうら しろう)

長崎大学 平成14年卒  
死体解剖資格

非常勤  
**田中 伴典**  
(たなか とものり)

富山医科薬科大学 平成21年卒

非常勤  
**林 健太郎**  
(はやし けんたろう)

北里大学 平成22年卒

## 診療内容

日々の細胞診、生検診断、手術摘出臓器の病理診断、術中迅速診断、病理解剖および臨床病理カンファレンスを主な業務としています。

細胞診では、婦人科細胞診や尿細胞診はLiquid base cytology (LBC) を用いてきましたが、他の胸腹水、甲状腺など、他の領域でもLBC法を併用することにより、細胞を効率的に収集し診断するとともに、免疫組織化学や分子生物学への試料の応用を開始しました。穿刺細胞診もより良い標本を作成するため、細胞検査士をはじめとする病理部のスタッフが穿刺現場で、臨床医

が採取した検体の処理に当たっています。

生検診断や摘出臓器の診断ではH.E.染色や特殊染色に加え、免疫組織化学がルーチン化されています。自動免疫染色装置を用いて作業の効率化を図るとともに、陽性コントロール、陰性コントロールを常に併用することにより、精度の高い染色を行っています。乳腺では従来からホルモンレセプターやHER2の染色のため、免疫組織化学が行われています。HER2染色では組織の固定状態が重要ですので、摘出後なるべく早く緩衝ホルマリンを摘出臓器に注入固定するようにしています。また、

胃癌においても分子標的治療の開始に伴いHER2染色やFISHによる診断と、大腸癌や肺癌でも分子標的治療の為の遺伝子診断を行っています。

消化器科や外科系の医師とは、摘出臓器の切り出し時に立ち会ってもらい、実際の臓器の所見を術前の画像診断等と付き合わせて切り出しています。術前カンファレンスへの参加とともに、臨床医がそれぞれの症例で何を問題としているかをお互いに確認しつつ、臓器の検索を行うことが可能です。生検診断、摘出臓器の診断とともに、可能な限り早急に結果を臨床医に報告しています。消化器系の摘出標本については、毎週術前カンファレンス後に、術後の臨床病理カンファレンスで症例を呈示しています。消化器系以外の外科提出標本については、毎月合同カンファレンスを開催し、興味のある症例についてより詳細に検討を加えています。必要があれば、これらのカンファレンス後の追加検討も行っています。キャンサーボードにも同様に密に関与しています。また腎生検では蛍光抗体法を含め腎臓内科医と一緒に組織を検鏡し、臨床データと照合しつつ診断のみならず治療方針も検討しています。

術中迅速診断では、乳腺のセンチネルリンパ節および温存術に於ける断端の検索が著しく増加しています。

1例にかかる時間が長くなる傾向にありますが、クリオスタット1台と病理部の技士数からいたしかたないところです。また術中細胞診との併用も日常的に行い、より精度

の高い術中診断を行えるようになりました。

剖検はどこの施設でも年を追って減少していますが、当院でも剖検数が減少しています。剖検症例はほぼ全例実際の固定臓器を示しながら、組織所見もまじえてCPCを行うことで解剖の結果を臨床へ還元しています。2013年度はCPCを11回開催しました。またご希望のあるご遺族には主治医からCPCをふまえた最終的な結果を報告させていただいています。

学会や研究会の支援も病理部で力を入れており、病理に関連したスライドの作成依頼は例年 30ないし40例程度あります。若い先生には消化器のカンファレンスなどでは内視鏡所見や ESDなどの所見と照らし合わせつつ、病理所見も自ら発表して頂いています。また病理部としての学会活動や研究会での発表の他、学会誌の編集委員としての査読業務、論文や教科書の執筆などの学術活動、大学や看護学校での講義などの活動も幅広く行いました。

佐賀大学病理学教室や長崎大学原研病理学教室・第2病理学教室とも密接な連携関係にあります。大学の教授以下、スタッフにも病理診断に加わっていただき、ほぼ全症例をダブルチェック、あるいはトリプルチェックしています。また、大学の教室の協力により、一人病理医のフォローアップとともに、大学の若手の先生の人体病理学の卒後教育にも積極的に取り組んでいます。

## 診療実績

	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度
組織診断	2,478件	1,992件	2,279件	2,358件
細胞診断	4,400件	4,544件	4,842件	4,837件
解剖	10件	10件	21件	10件
剖検例CPC	8回	6件	10件	11件
臨床病理カンファレンス	79回	75件	81件	51件

Dept. of Medical Center of Cognitive Disorders

# 認知症疾患医療センター

認知症は、早めの発見・早めの治療が大切です。

■診療担当医 ※2014年7月31日現在



認知症統括顧問  
センター長

**井手 芳彦**

(いで よしひこ)

長崎大学 昭和46年卒  
認知症サポート医  
日本神経学会認定専門医  
日本内科学認定内科医

## 診療内容

全国的に増え続ける認知症患者さんに対応して、当法人では2009年10月に長崎県から「認知症疾患医療センター」の認可を受け、同年12月から診療を開始しました。

認知症専門医1名、精神保健福祉士2名、高次脳機能検査担当作業療法士(OT)1名、専任看護師1名、専任診療アシスタント2名、医療秘書1名の総勢8名で運営しています。

認知症およびその疑いのある患者さんを診察し、確定診断と治療/介護方針を立て、地域の紹介元医師(かかりつけ医)、あるいは「認知症診療医」に紹介し、包括支援センター・介護施設へも誘導し、適切な治療と介護のアドバイスを行っています。

通常の診療では、ご家族から詳細な問診を行い、本

人の診察、高次脳機能検査、脳MRIかCTを施行します。場合によって、脳血流SPECT、MIBG心筋シンチグラムまで行います。

病歴と高次脳機能検査で直ちに診断がつく認知症もありますが、正常加齢か認知症初期かが判然としないMCIが最近増えてきました。周辺症状または行動・心理的症状(BPSD)を伴う患者さんの場合は、ご家族への適切な介護指導と、BPSDをやわらげる薬物処方や連携精神科病院への紹介を迅速にし、介護者の肉體・精神的負担を軽くすることを第一に考えています。

2011年春から夏にかけて、新しい認知症治療薬が3種類登場しましたので、これらの新薬を含め4種類の認知症治療薬について、認知症講演会や勉強会を開催し、市内の認知症診療医を中心に、新薬の適応や使い分けの研修を続けています。

## 診療実績

当センターの受診希望者は増える一方です。予約から初診までの平均待ち期間が2ヶ月と長いのが悩みの種でしたが、2013年7月より診察と諸検査をスピードアップする診療システムに変更しました。その結果、予約から診療までの待ち時間は平均2週間、急ぎの場合は1週間以内に検査と診療が可能になりました。

2013年4月から2014年3月までの1年間で、ご家族か

ら直接あるいは医療機関経由で、初診患者さん470人の診察を行いました。また、電話・面談では年間847件の相談を受けました。この数字は全国200ヵ所あまりある認知症疾患医療センターの中で上位10%にランクされる実績です。

月曜日～木曜日は午前中の4時間、金曜日は午後3時間半を外来診療に当て、月平均40名の新規患

者さんを診ています。鑑別診断の内訳は、正常加齢と認知症の境界(MCI)が18%、アルツハイマー型認知症(AD)が約50%、その80%以上はなんらかの血管障害(慢性脳虚血)を伴っています。レビー小体型認知症(DLB)が12%、前頭側頭葉型変性症(FTLD)が9%です。純粋な血管性認知症は3%以下です。なかでもDLBとFTLDがじわりと増えてきました。DLBは心臓突然死が危惧され運動障害も加わりますので、他の認知症に比べて薬物治療・介護に気を遣います。FTLDはBPSDが最も出やすく、在宅での介護は実際上非常に困難です。しかし、新薬メマンチンの登場で、ある程度の段階までは在宅でも介護が可能になりました。

受診予約をして診療待ちの家族、および確定診断のついでに患者さんの家族を対象に、佐世保中央病院講義室で「認知症健康教室:メモリー・クラスルーム」を月1回行っています。認知症の基礎、介護の基礎、介護保険のしくみと介護施設の上手な利用法などを、我々スタッフが分担して3時間ほど講義します。最後に「認知症の人と家族の会」に所属する介護経験者による介護体験記を聴いていただきます。授業に参加したご家族からは、患者さんの心の中がよくわかるようになり対応がやさしくなった結果、患者さんのBPSDが少なくなり介護が楽になった、という声が多数聴かれるようになりました。今後は、一般かかりつけ医の診療を受けている認知症患者さんの家族にも門戸を開き、より多くの家族にこの授業を受けていただきたいと考えています。

Health Care Center

# 健康増進センター

がんや生活習慣病の早期発見を目指し、予防医学活動を行っています。

## 診療担当医 ※2014年7月31日現在



センター長  
健康管理部長  
**中尾 治彦**  
(なかお はるひこ)

長崎大学 昭和54年卒  
医学博士  
日本人間ドック学会正会員・ドック専門医・認定医  
日本外科学会専門医  
日本消化器病学会専門医  
日本消化器外科学会認定医  
日本医師会認定産業医  
九州予防医学研究会理事



特別顧問  
**石丸 忠之**  
(いしまる ただゆき)

長崎大学 昭和42年卒  
医学博士  
日本産科婦人科学会名誉会員・専門医  
日本産婦人科内視鏡学会名誉会員  
日本産婦人科手術学会功労会員  
日本エンドメトリオース学会顧問  
絨毛性疾患研究会顧問  
日本医師会認定産業医



部長  
**寺園 敏昭**  
(てらその としあき)

長崎大学 昭和59年卒



医長  
**本多 幸**  
(ほんだ みゆき)  
2014年4月就勤

長崎大学 平成4年卒  
医学博士  
日本内科学会認定内科医  
日本医師会認定産業医



医師  
\*神経内科(診療部長)と兼任  
**竹尾 剛**  
(たけお こう)

長崎大学 昭和59年卒  
医学博士  
日本神経学会専門医・指導医  
日本内科学会認定内科医  
日本医師会認定産業医



医師  
\*リウマチ・膠原病センター  
(センター長)と兼任  
**寺田 馨**  
(てらだ かおる)

長崎大学 昭和60年卒  
医学博士  
長崎大学臨床教授  
日本リウマチ学会専門医  
日本内科学会認定内科医

非常勤

**野々下 晃子**  
(ののした あきこ)

久留米大学 平成8年卒  
日本産科婦人科学会専門医

非常勤

**橋爪 聡**  
(はしづめ さとし)

広島大学 平成8年卒  
日本外科学会専門医  
日本ヘリコバクター学会認定医  
日本医師会認定産業医

非常勤

**板倉 英世**  
(いたくら ひでよ)

金沢大学 昭和38年卒  
医学博士  
長崎大学名誉教授  
日本医師会認定産業医

非常勤

**山本 美保子**  
(やまもと みほこ)

佐賀大学 平成19年卒

非常勤

**田中 伴典**  
(たなか ともりの)

富山大学 平成21年卒

非常勤

**橋迫 美貴子**  
(はしざこ みきこ)

九州大学 平成20年卒



## 基本理念・基本方針

### 【基本理念】

受診者の健康を支援し、活力のある地域社会の実現に貢献します。

### 【基本方針】

1. 生活習慣病の早期発見と予防の啓発に努め、健康の維持・増進をサポートします。
2. 検査技術や診断機器の精度向上を常に心がけ、質の高い検診を提供します。
3. 特定健診・保健指導を通して、受診者のライフスタイルを考えた継続的な支援を行います。
4. すべてのスタッフが相互に協力・連携して、受診者の皆様に満足いただけるサービスを提供します。
5. 健診業務で得られた個人情報への守秘義務と、受診者ご自身の知る権利を遵守します。

## 施設沿革

設立：1996年4月1日

沿革：1996年 前身となる白十字会医療社会事業部設立

2002年 佐世保中央病院健康増進センターに改称  
(新館建設に伴い検査機器と環境の充実を図る)

2008年 人間ドック学会健診施設機能評価認定取得

## 認定施設・指定

- ・ 人間ドック学会健診施設機能評価 (Ver.2) 認定施設
- ・ マンモグラフィ検診画像認定施設
- ・ 健康保険組合連合会指定健診施設
- ・ 全国健康保険協会管掌健診指定施設

## 健診内容

健康増進センターは、佐世保中央病院に併設された健診施設で、2002年にそれまでの白十字会医療社会事業部から、新たにゆとりのある空間での快適な受診環境へと整備されました。

ドック基本項目の上部消化管検査と乳がん子宮がん検診などを除いては、ワンフロアで受診可能な環境となっています。人間ドック健診をはじめ、様々な健診において、日本消化器病専門医、日本医学放射線学会専門医、日本内科学会認定内科医、検診マンモグラフィ撮影認定診療放射線技師などの各専門スタッフが担

当し、健診の質の確保を図っています。

中尾は主として消化器系及びがん検診、石丸は婦人科系、寺園は主として呼吸器系と内科全般、竹尾は脳ドック、本多・山本・板倉・橋迫・田中は内科一般、橋爪は内視鏡、野々下は健診一般を担当しております。

2008年12月、運営の合理性など第三者が評価する人間ドック学会の健診施設機能評価を受審し、認定を取得することができました。これからも、業務内容と環境の両面での見直しを行い、受診者目線で、質とサービスの向上に取り組んでいきたいと考えています。

## 健診実績

	2011年度	2012年度	2013年度
1日(日帰り)ドック	1,618	1,493	1,631
2日(宿泊)ドック	328	354	347
健診受診者総数	14,032	15,180	15,844

## 健診検査別実施数

検査名	実績数
胃内視鏡	2,737
胃透視	1,836
腹部超音波	2,265
心電図	5,519
胸写	7,048
肺CT	653

検査名	実績数
マンモグラフィ	2,394
乳腺超音波	414
脳MRI	378
便潜血	5,180
子宮頸部	2,863
子宮体部	147

# 学会発表実績

## 神経内科

### 講演会・セミナー

会期	講演会・セミナー名	演題	講師
2013年 6月25日	協和発酵キリン(株)社員教育講演会	パーキンソン病の治療 ウェブリングオブ治療を中心に	竹尾 剛
2013年 7月27日	難病医療相談会(重症筋無力症)	重症筋無力症について	竹尾 剛
2013年 10月15日	大塚製薬(株)社内勉強会	ニュープロパッチ経験症例	竹尾 剛
2013年 11月13日	大塚製薬(株)社内勉強会	パーキンソン病の基礎と臨床	竹尾 剛
2014年 2月21日	エフピー(株)社内勉強会	パーキンソン病治療について	竹尾 剛

## リウマチ・膠原病センター

### 学会・研究会

会期	学会名	演題	発表者
2013年 4月18～20日	第57回 日本リウマチ学会 総会・学術集会	当院におけるイグラチモド(IGU)の使用経験	植木 幸孝
2013年 5月16日	第14回 長崎インフリキシマブ 研究会	真の寛解を目指した新たな試み ～第2選択薬としてのインフリキシマブの可能性～	植木 幸孝
2013年 7月22日	第37回 県北膠原病研究会	関節リウマチ患者における糖尿病治療	植木 幸孝
2013年 8月25日	第47回 広島リウマチ研究会	生物学的製剤がリウマチ診療にもたらしたもの ～チーム医療と医療連携～	植木 幸孝
2013年 9月7～8日	第46回 九州リウマチ学会	血小板減少症を合併したSLEの加療中に BKウイルスによる出血性膀胱炎を来した一例	梅田 雅孝
		佐世保中央病院におけるトシリズマブ使用症例の 検討	曾根本恵美
2013年 11月1日	第22回 県北リウマチ研究会	関節リウマチ治療における生物学的製剤、 第2選択薬としてのインフリキシマブの可能性	梅田 雅孝
2013年 11月7日	第25回 アポトーク21 研究会	リウマチ医療連携における薬剤師への期待	植木 幸孝
2013年 11月30日	立川リウマチネットワーク研究会	地域が目指す新しいリウマチ治療戦略 ～長崎県北リウマチネットワークの取り組み～	植木 幸孝
2013年 11月30日～ 12月1日	第28回 日本臨床リウマチ学会	関節リウマチ治療における生物学的製剤、 第2選択薬としてのインフリキシマブの可能性	梅田 雅孝

会 期	学 会 名	演 題	発 表 者
2014年 3月15～16日	第47回 九州リウマチ学会	当院における呼吸器合併症RA患者に対する治療選択	荒牧 俊幸
		生物学的製剤投与中の関節リウマチ患者への質問紙による満足度調査	植木友理子
		リウマチ治療における循環型医療連携	植木 幸孝
		繰り返す筋膜炎を呈し、筋生検で筋・筋膜へ好中球浸潤を認めた家族性地中海熱の一例	梅田 雅孝
		成人発症スティル病との鑑別を要した inflammatory myopathy with abundant macrophages (IMAM)の一例	池田 貴裕
		エンブレルオートシリンジ変更後の実態調査	野口早由里

## 講演会・セミナー

会 期	講演会・セミナー名	演 題	講 師
2013年 4月8日	外部講師勉強会	アクテムラ皮下注製剤の使用経験	植木 幸孝
2013年 5月9日	嬉野RAエキスパートセミナー	関節リウマチの最新治療～バイオ製剤を中心に～	植木 幸孝
2013年 5月11日	石川リウマチ医療連携を考える会	生物学的製剤治療が関節リウマチ診療にもたらしたもの～チーム医療と医療連携～	植木 幸孝
2013年 5月15日	佐世保皮膚科医会学術講演会	膠原病における皮膚所見から診た臓器障害	植木 幸孝
2013年 5月30日	第297回 県北臨床内科医会学術講演会	骨粗鬆症の最新治療	植木 幸孝
2013年 6月5日	ステロイド性骨粗鬆症研究会	ステロイド性骨粗鬆症の最新治療～フォルテオの使用成績～	植木 幸孝
2013年 6月11日	北勢地区RAセミナー	関節リウマチ治療における生物学的製剤の位置づけとトータルケアチーム医療の実際について	植木 幸孝
2013年 6月19日	関節リウマチ Specialists' Meeting	関節リウマチ治療の院内システム構築と治療戦略について～ゴリムマブ・インフリキシマブの治療成績と位置付けを中心に～	植木 幸孝
2013年 6月24日	Orencia RA seminar in SASEBO	当院におけるアバタセプトの治療経験	荒牧 俊幸
2013年 6月28日	県北骨粗鬆症フォーラム	内科医からみた骨粗鬆症治療	植木 幸孝
2013年 7月6日	第34回 リウマチセンター間連絡会	当院におけるイグラチモド(IGU)の使用経験	植木 幸孝
2013年 7月8日	旭化成ファーマ(株) 骨領域勉強会	骨粗鬆症の最新治療	植木 幸孝
2013年 7月25日	Infliximab Meeting in 久留米	リウマチ診療に生物学的製剤がもたらしたもの～チーム医療と医療連携～	植木 幸孝
2013年 8月24日	静岡リウマチネットワーク学術講演会	生物学的製剤治療がリウマチ診療にもたらしたもの～チーム医療と医療連携、トシリズマブ皮下注製剤への期待～	植木 幸孝
2013年 8月27日	第5回 県北自己免疫疾患フォーラム	注意を要する膠原病の臓器合併症	荒牧 俊幸

会 期	講演会・セミナー名	演 題	講 師
2013年 8月30日	関節リウマチ学術講演会	リウマチ治療におけるトシリズマブ皮下注製剤への期待	植木 幸孝
2013年 9月3日	ファイザー株式会社 社内講演会	関節リウマチに関する新しい知見	荒牧 俊幸
2013年 9月12日	腎と膠原病 学術講演会	全身性エリテマトーデス 最近の知見から	荒牧 俊幸
2013年 9月13日	骨粗鬆症フォーラム	関節リウマチの最新治療～当院でのビスフォスフォネートMonthly製剤の使用経験を含めて～	植木 幸孝
2013年 9月27日	第4回 十勝リウマチ看護を 考える会	リウマチケア看護師の役割 ～外来での関わりを中心として～	野口早由里
2013年 10月4日	第6回 県北自己免疫疾患 フォーラム	治療に難渋したリウマチ膠原病疾患の一例	荒牧 俊幸
2013年 10月10日	佐世保外科医会講演会	骨粗鬆症の最新治療～プラリアを中心に～	植木 幸孝
2013年 11月1日	第22回 県北リウマチ研究会	関節リウマチ治療における生物学的製剤、 第2選択薬としてのインフリキシマブの可能性	梅田 雅孝
2013年 11月7日	第25回 アポトーキ21研究会	リウマチ医療連携における薬剤師への期待	植木 幸孝
2013年 11月17日	日本医療薬学会 医療薬学公開シンポジウム	ランチョンセミナー	植木 幸孝
2013年 11月28日	第5回 手稲リウマチ膠原病 カンファレンス	地域が目指す新しいリウマチ治療戦略 ～長崎県北リウマチネットワークの取り組み～	植木 幸孝
2013年 12月3日	Biologics User's Forum on RA In 長崎	当院におけるゴリムマブの使用経験	梅田 雅孝
2013年 12月7日	第3回 湖北・湖東リウマチ 連携の会	地域が目指す新しいリウマチ治療戦略 ～長崎県北リウマチネットワークの取り組み～	植木 幸孝
2014年 2月21日	島原市医師会学術講演会	地域が目指す新しいリウマチ治療戦略 ～長崎県北リウマチネットワークの取り組み～	植木 幸孝
2014年 3月7日	Biologics Seminar in 別府	RA薬物療法における生物学的製剤の選択基準 ～当院における試み～	植木 幸孝
2014年 3月29日	三河 膠原病ミーティング	地域が目指す新しいリウマチ治療戦略 ～長崎県北リウマチネットワークの取り組み～	植木 幸孝

## 座長

会 期	学会・講演会名	演 題	講 師	座 長
2013年 6月24日	Orencia RA seminar in SASEBO	当院におけるアバタセプトの 治療経験	荒牧 俊幸	植木 幸孝
2013年 8月27日	第5回 県北自己免疫疾患 フォーラム	注意を要する膠原病の 臓器合併症	荒牧 俊幸	植木 幸孝
2013年 8月30日	関節リウマチ学術講演会	Bio製剤登場によりもたらされた 関節リウマチ治療の進歩	佐世保市立総合病院 病院長 江口 勝美先生	植木 幸孝
2013年 9月12日	腎と膠原病 学術講演会	ネフローゼ症候群	佐世保市立総合病院 腎臓内科 医長 森 篤史先生	植木 幸孝
2013年 9月28日	リウマチ肺病変マネジメント セミナー	リウマチ疾患における肺病変の 実態	熊本再春荘病院 リウマチ科 部長 森 俊輔先生	植木 幸孝

会 期	学会・講演会名	演 題	講 師	座 長
2013年 11月1日	第22回 県北リウマチ 研究会	関節リウマチ患者の前足部変形に 対する手術	長崎労災病院 整形外科 部長 石井 孝子先生	植木 幸孝
		関節リウマチ治療における生物学的 製剤、第2選択薬としてのイン フリキシマブの可能性	梅田 雅孝	
2013年 11月6日	骨粗鬆症治療 学術講演	最近の骨粗鬆症治療について —骨折予防効果の観点から—	長崎大学病院メディカル・ワー クライフバランスセンター 教授 伊東 昌子先生	植木 幸孝
2013年 11月19日	第11回 トシリズマブ適正 使用研究会	トシリズマブ治療の関節超音波に よる効果判定	長崎大学大学院 第一内科 川尻 真也先生	植木 幸孝
		コルヒチン抵抗家族性地中海熱に トシリズマブが奏功した1例	佐世保市立総合病院 内科 清水 俊匡先生	植木 幸孝
2013年 11月20日	第4回 長崎県北肺高血圧 症研究会	膠原病に伴うPAHの診断と治療	東京女子医科大学 リウマチ科 臨床教授 川口 鎮司先生	植木 幸孝
2013年 11月26日	第38回 県北膠原病研究会	高齢者への23価肺炎球菌 ワクチン接種のインパクト	長崎医療センター臨床研究 センター 臨床疫学研究室 室長 山崎 一美先生	植木 幸孝
		関節リウマチ治療の最前線	埼玉医科大学総合医療セン ター リウマチ・膠原病内科 教授 天野 宏一先生	
2013年 12月2日	循環型地域連携講演会	リウマチ管理ノートから 「ララサークルノート」へ	井元陽子・野口早由里・ 菅沼徳恵・植木友理子	植木 幸孝
2013年 12月4日	循環型地域連携講演会	リウマチ管理ノートから 「ララサークルノート」へ	井元陽子・野口早由里・ 菅沼徳恵・植木友理子	植木 幸孝
2014年 1月16日	第303回 県北臨床内科 医学会学術講演会	眼で診る睡眠障害	済生会長崎病院 睡眠医療 センター、上五島病院内科 佐世保中央病院 睡眠外来 近藤 英明先生	植木 幸孝
2014年 1月25日	Biologics Expert Seminar in RA	Golimumabにおける投与時痛の 検討	岐阜大学大学院医学系研究 科脊椎関節再建外科学 佐藤 正夫先生	植木 幸孝
		Golimumabの特性と実診療に おける有用性	東京女子医科大学附属 膠原病リウマチ痛風センター 桃原 茂樹先生	
2014年 1月30日	佐世保リウマチ病診連携 セミナー	当院におけるアバセプトの 治療成績	国家公務員共済組合連合会 横浜南共済病院 副院長 長岡 章平先生	植木 幸孝
2014年 2月17日	病診連携漢方セミナー in させぼ	痛みの漢方治療	桜十字福岡病院 漢方内科 木村 豪雄先生	植木 幸孝

## 論文

題 名	掲 載 誌	著 者
Monthlyビスホスホネート製剤 ミノドロン酸水和物50mgの 臨床効果 (骨密度と骨代謝マーカー)に関 する検討	新薬と臨床 2014;63:106-111	植木 幸孝・荒牧 俊幸・梅田 雅孝 寺田 馨
Improvement of plasma endothelin-1 and nitric oxide in patients with systemic sclerosis By bosentan therapy	Rheumatol Int 2014;34:221-225	Shinya Kawashiri, Yukitaka Ueki, Kaoru Terada, Satoshi Yamasaki, Kiyoshi Aoyagi, Atsushi Kawakami

題 名	掲 載 誌	著 者
悪性腫瘍を合併したRS3PE症候群の9例の検討	臨床リウマチ 24:206-214, 2012	折口 智樹・有馬 和彦・川尻 真也 古賀 智裕・玉井 慎美・山崎 聡士 中村 英樹・川上 純・塚田 敏昭 宮下賜一郎・荒牧 俊幸・溝上 明成 古山 雅子・河部庸次郎・ <u>岩永 希</u> <u>寺田 馨</u> ・植木 幸孝・福田 孝昭 江口 勝美
Drug free Remission/ low disease activity after cessation of tocilizumab (Actemra) Monotherapy(DREAM) sutudy	Mod Rheumatol, 2014;24(1):17-25	Norihiro Nishimoto, Koichi Amano, Yasuhiko Hirabayashi, Takahiko Horiuchi, Tomonori Ishii, Mitsuhiro Iwahashi, Masahiro Iwamoto, Hitoshi Kohsaka, Masakazu Kondo, Tsukasa Matsubara, Toshihide Mimura, Hisaaki Miyahara, Shuji Ohta, Yukihiro Saeki, Kazuyoshi Saito, Hajime Sano, Kiyoshi Takasugi, Ysutomu Takeuchi, Shigeto Tohma, Tomomi Tsuru, <u>Yukitaka Ueki</u> , Jiro Ymana, Jun Hashimoto, Takaji Matsutani, Miho Murakami, Nobuhiro Takagi
Retreatment efficacy and safety of tocilizumab in patients with rheumatoid arthritis in recurrence (RESTORE)study	Mod Rheumatol 2014;24(1):26-32	Norihiro Nishimoto, Koichi Amano, Yasuhiko Hirabayashi, Takahiko Horiuchi, Tomonori Ishii, Mitsuhiro Iwahashi, Masahiro Iwamoto, Hitoshi Kohsaka, Masakazu Kondo, Tsukasa Matsubara, Toshihide Mimura, Hisaaki Miyahara, Shuji Ohta, Yukihiro Saeki, Kazuyoshi Saito, Hajime Sano, Kiyoshi Takasugi, Ysutomu Takeuchi, Shigeto Tohma, Tomomi Tsuru, <u>Yukitaka Ueki</u> , Jiro Ymana, Jun Hashimoto, Takaji Matsutani, Miho urakami, Nobuhiro Takagi
Developmet of Adult T-Cell Leukemia in Patient with Rheumatoid Arthritis Treated with Tocilrizumab	Intern Med 52:1983-1986 ,2013	Hideki Nakamura, <u>Yukitaka Ueki</u> , Shigeki Saito, Yoshiro Horai, Takahisa Suzuki, Tomoki Naoe, Katsumi Eguchi and Atsusi Kawakami
トシリズマブ・オートインジェク ター(自動注射装置)の有効性、安 全性についての解析	薬理と治療(JPT) Vol.41 no.7 別冊 677-683ページ 2013年	植木 幸孝
Pneumococcal Polysaccharide vaccination in rheumatoid arthritis patients receiving tocilizumab therapy	Ann Rheum Dis.2013 Jan 23	Shunsuke Mori, <u>Yukitaka Ueki</u> , Yukihiro Akeda, <u>Naoyuki Hirakata</u> , Motohiro Oribe, Yoshiki Shiohira, Toshihiko Hidaka, Kazunori Oishi
五穀玄米粉(温式焙煎)に潜む 栄養力と抗酸化能:高ORAC値に 期する機能性	医学と生物学 157:134-141, 2013	阿久津和夫・森 宏行・柳沢 昊永 茅原 紘・植木 幸孝・ <u>平方 尚之</u> <u>今里 孝宏</u> ・足立 哲夫・下村 弘治 前畑 英介

## 糖尿病センター

### 学会・研究会

会 期	学 会 名	演 題	発表者
2013年 5月16日～18日	第56回 日本糖尿病学会 年次学術集会	病院に勤務する糖尿病専門医の インフラストラクチャーとしての役割	松本 一成
		当院におけるGLP-1受容体作動薬を使用した 124例の検討	藤島圭一郎
2013年 8月24日～25日	第8回 日本臨床コーチング 研究会学術集会	「動機づけ面接法」を糖尿病看護に応用する セミナー ―アンケート調査の結果報告―	松本 一成
2013年 9月22日～23日	第18回 日本糖尿病 教育・看護学会学術集会	患者さんがインスリン治療を受け入れやすくなる 対話術	松本 一成
2013年 11月8日～9日	第51回 日本糖尿病学会 九州地方会	ステップ運動を勧めるための行動療法的アプローチ	松本 一成
		1型糖尿病維持透析患者へのデグルデク導入経験 (CGMで観察した1例)	森 良孝
		CGMSで見る1型糖尿病患者の特徴	藤島圭一郎
		糖尿病患者における時間得失法(Time trade off) の有用性について	森 美美
2013年 11月29日	第23回 日本メイラード学会 学術集会	ピリドキサミンによる腹膜保護の検討	森 良孝

### 講演会・セミナー

会 期	講演会・セミナー名	演 題	講 師
2013年 4月5日	第8回 大牟田糖尿病セミナー	患者さんが生きる行動目標設定法	松本 一成
2013年 4月23日	日本ベーリンガーインゲルハイム (株)社員臨床講座	糖尿病治療の現状について	藤島圭一郎
2013年 5月21日	第28回 長崎県央地区透析 スタッフ懇話会	糖尿病コーチングの基本スキル	松本 一成
2013年 5月25日	第1回 糖尿病コーチング研究会 in新潟	糖尿病患者さんへのコーチング 1.「コーチングの対話を体験してみよう」 2.「タイプ別対応を知ると苦手な患者さんでも大丈夫」	松本 一成
2013年 6月1日	第14回 熊本糖尿病教育看護 研究会	糖尿病患者さんとのコミュニケーション ～コーチングの基本とタイプ別対応～	松本 一成
2013年 6月11日	アストラゼネカ(株) 医薬情報担当者社員教育研修	糖尿病と薬物治療について	藤島圭一郎
2013年 6月14日	第3回 下関糖尿病チーム 医療研究会	糖尿病患者との面接のコツ ―やる気を引き出す手法コーチング―	松本 一成
2013年 6月29日	第4回 タケダ糖尿病シンポジウム in九州・沖縄	糖尿病治療における行動療法とコーチング	松本 一成
2013年 7月4日	柳井糖尿病勉強会	患者さんのやる気を引き出す対話法 ―糖尿病コーチング―	松本 一成
2013年 7月9日	日本イーライリリー(株) MR研修会	インクレチン製剤および糖尿病治療薬選択動向に ついて	藤島圭一郎
2013年 7月11日	インスリン療法UP Date講演会	ヒューマログミックス50の治療経験 ―各食前注射法の成績―	松本 一成

会 期	講演会・セミナー名	演 題	講 師
2013年 8月28日	ノボルディスクファーマ(株) 社内勉強会	インクレチン関連薬による糖尿病治療	藤島圭一郎
2013年 8月29日	第48回 筑豊透析懇話会	糖尿病コーチングの基本スキル	松本 一成
2013年 8月30日	第2回 川内地域糖尿病 コーチング学術講演会	糖尿病患者さんが活きる行動目標の定め方	松本 一成
2013年 9月3日	周南地域医療支援研修会	糖尿病患者さんが自ら行動を変える対話法 —糖尿病コーチング—	松本 一成
2013年 9月7日	ジョンソン・エンド・ジョンソン(株) 社内勉強会	患者さんの行動が変わるSMBG利用法!	松本 一成
2013年 9月28日	第3回 糖尿病コーチング研究会 in新潟	糖尿病患者さんへのコーチング 『動機づけ面接法を糖尿病診療に応用する —理論と実践—』	松本 一成
2013年 10月5日~6日	ジョンソン・エンド・ジョンソン(株) 社内勉強会	あなたが変われば患者も変わる—SMBG指導に 役立つコーチング手法—	松本 一成
2013年 10月17日	サノフィ(株)社内勉強会	GLP1-受容体作動薬、今後の展望 ~症例を踏まえて~	藤島圭一郎
2013年 10月18日	第1回 糖尿病ざっくばらん会	行動療法を糖尿病に応用する —糖尿病の生活習慣改善のために—	松本 一成
2013年 10月23日	ノボルディスクファーマ(株) 社内勉強会	トレスリーバ注の症例提示	森 良孝
2013年 10月31日	糖尿病診療研修セミナー	糖尿病診療における最近のトピックス	松本 一成
2013年 11月25日	Diabetes Expert Seminar	シタグリプチンと基礎インスリンで治療した 高齢2型糖尿病の1例	松本 一成
2013年 11月29日	福岡西部臨床コーチングセミナー	行動療法で、できる糖尿病患者を増やそう	松本 一成
2013年 11月30日	宮崎県糖尿病懇話会 学術講演会	コーチングと行動療法を用いて”できる 糖尿病患者さん”を増やそう	松本 一成
2013年 12月14日	生活習慣病講演会	できる糖尿病患者を増やす方法~糖尿病治療に おけるコーチングと行動療法の有用性~	松本 一成
2014年 1月14日	第31回 市民病院地域医療 公開講演会	糖尿病患者との医療面接のコツ -コーチングの使い方-	松本 一成
2014年 1月22日	日本イーライリリー(株) 社内勉強会	インスリン治療のこれからを考える	森 良孝
2014年 1月28日	アステラス製薬(株)社内勉強会	インクレチン関連薬による糖尿病治療	藤島圭一郎
2014年 1月30日	田辺三菱製薬(株)社内勉強会	糖尿病の薬物治療について	藤島圭一郎
2014年 1月31日	児島地区糖尿病セミナー	糖尿病患者さんをやる気にさせる対話術	松本 一成
2014年 2月5日	第17回 朝倉医師会病院 「糖尿病セミナー」	あなたの糖尿病療養指導が劇的に変わる ~コーチングの使い方~	松本 一成
2014年 2月13日	日本イーライリリー(株)主催 看護師向けWeb講演会	糖尿病患者さんがインスリン治療を 受け入れやすくなる対話術	松本 一成
2014年 2月15日	日医生涯教育協力講座セミナー	2型糖尿病のインスリン療法	松本 一成



会 期	講演会・セミナー名	演 題	講 師
2014年 2月21日	山口市病診連携の会	糖尿病患者さんが自ら行動を変える対話 ～糖尿病コーチングのやり方	松本 一成
2014年 3月1日	糖尿病療養指導スキルアップ セミナー	患者さんがインスリン治療を受け入れやすくなる 対話術	松本 一成
2014年 3月7日	第48回 糖尿病の進歩 イブニングセミナー6	方法からはじめる糖尿病の医療面接 —コーチングの使い方—	松本 一成
2014年 3月10日	日本イーライリリー(株)主催 看護師向けWeb講演会	糖尿病患者さんがインスリン治療を 受け入れやすくなる対話術	松本 一成
2014年 3月15日	ジョンソン・エンド・ジョンソン(株) 主催セミナー	あなたが変われば患者も変わる —SMBG指導に役立つコーチング手法—	松本 一成
2014年 3月18日	第27回 糖尿病診療を考える会	ステップ運動を勧めるための行動療法的アプローチ	松本 一成
2014年 3月28日	DMコーチングスキルアップ セミナー ～効果的なインスリン導入対話術～	患者さんがインスリン治療を受け入れやすくなる 対話術	松本 一成
2014年 3月29日	DMコーチングスキルアップ セミナー ～インスリン導入へのアプローチ～	コーチングと行動療法を用いて”できる糖尿病患者 さん”を増やそう	松本 一成
2014年 3月31日	Humalog Conference 第9回 大分県北部インスリンセミナー	糖尿病患者との医療面接のコツ —コーチングの使い方—	松本 一成

## 循環器内科

### 学会・研究会

会 期	学 会 名	演 題	発表者
2013年 7月11日	第22回 日本心血管インターベン ション治療学会学術集会	冠動脈バイパス術後3年目に生じた静脈グラフト瘤 に対してカバードステントで加療した1例	赤司 良平
		心電図モニターアラーム音に対する意識調査	久保田 薫 船崎このみ
		PCI/AMI地域連携パスを使用した患者管理の実態調査	長井 友美 井上 孝子
2013年 9月7日	第21回 長崎救急医学会	発熱によりcoved型ST上昇が顕著となった Brugada型心電図の一例	池田 貴裕
2013年 12月7日	第115回 日本循環器学会地方会	頻拍性心房細動に伴う難治性心不全に対し房室ブ ロック作成術及びCRT加療が好奏した一例	佐藤 慧
2014年 2月22日	第6回 植込みデバイス関連 冬季大会	条件付きMRI対応型ペースメーカー植込み後の患者 に対し事前確認なく頭部MRIが緊急撮影された1例	本田 智大

### 講演会・セミナー

会 期	講演会・セミナー名	演 題	講 師
2013年 10月31日	仙台循環器病センタークリニカル パス大会	連携パスって…	木崎 嘉久
2013年 12月6日	長崎県北地区 Network Meeting	抗凝固療法の適切な普及のために 症例掲示I	赤司 良平
2014年 2月4日	第62回ハートカンファランス	上室性頻拍発作への薬物管理-症例を通じて-	本田 智大

会 期	講演会・セミナー名	演 題	講 師
2014年 3月27日	第一三共 循環器領域勉強会	佐世保中央病院におけるPCI実施状況と抗血栓療法について	木崎 嘉久
2014年 3月29日	第7回 長崎心臓リハビリテーション研究会	心臓リハビリテーションについて	木崎 嘉久

## 座長・コメンテーター

会 期	学会・講演会名	演 題	講 師	座 長
2013年 6月17日	第44回 県北臨床循環器懇話会	大動脈弁置換術後の切開痕関連心房頻拍に対しEnSite Velocityを用いカテーテルアブレーションを施行した一例	佐世保市立総合病院 循環器内科 医長 園田 浩一朗先生	中尾功二郎
2013年 7月31日	医療連携研究会	糖尿病を中心とした動脈硬化管理の最前線	済生会福岡総合病院 循環器内科 部長 芹川 威先生	木崎 嘉久
2013年 8月2日	佐世保PADカンファランス	動脈硬化を考える ～末梢動脈疾患(PAD)について～	小倉記念病院 末梢血管インターベンション部 主任部長 横井 宏佳先生	木崎 嘉久
2013年 10月21日	第11回 東部地区臨床内科カンファランス	心血管イベントを未然に防ぐ -血圧からのアプローチ-	鹿児島大学大学院 医歯学総合研究科 心臓血管・高血圧内科学 教授 大石 充先生	木崎 嘉久
2013年 11月8日	動脈硬化性疾患 予防セミナー	生活習慣病の最近の治療 ～特に高血圧と糖尿病について～	順天堂大学大学院 医学研究科 循環器内科学 先任准教授 宮内 克己先生	木崎 嘉久
2013年 11月18日	県北循環器連携パス 学術講演会	心不全に対するチーム医療の 取り組み	呉医療センター 統括診療部長 川本 俊治先生	木崎 嘉久
2013年 11月20日	第4回 長崎県北 肺高血圧症研究会	肺高血圧症治療の実際 ～エビデンスと当院における 治療成績を含めて～	久留米大学医学部 内科学講座 心臓血管内科部門 田原 宣広先生	木崎 嘉久
2013年 11月29日	心不全 学術講演会	心不全治療における新規利尿薬 の役割	長崎大学病院 循環器内科 講師 小出 優史先生	木崎 嘉久
2014年 2月7日	佐世保高血圧学術講演会	JSH2014～作成過程と論点～	札幌医科大学 学長 島本 和明先生	木崎 嘉久
2014年 2月8日	第2回 鹿児島・長崎PCI ジョイントライブ	ステントの変遷と抗血栓治療	済生会熊本病院 循環器内科 部長 中尾 浩一先生	木崎 嘉久
2014年 3月29日	第7回 長崎心臓リハビリ テーション研究会	心臓リハビリテーションについて		木崎 嘉久

## 症例検討会

会 期	会 議 名
2013年4月16日	第59回 県北ハートカンファランス
2013年7月9日	第60回 県北ハートカンファランス
2013年10月8日	第61回 県北ハートカンファランス
2014年2月4日	第62回 県北ハートカンファランス

## 世話人

会 期	会 の 名 称
2013年7月29日	第2回 県北循環器連携バス
2013年11月26日	第45回 県北臨床循環器懇話会
2014年2月17日	第3回 県北循環器連携バス

## 消化器内視鏡センター

## 学会・研究会

会 期	学 会 名	演 題	発表者
2013年 5月26日	第301回 日本内科学会 九州地方会	胃癌,大腸癌,肝細胞癌の同時性三重癌の一例	大石 敬之
2013年 7月13日	第36回 長崎県北消化器癌 研究会	胃癌,大腸癌,肝細胞癌の同時性三重癌の一例	澤瀬 寛典
2013年 11月8~9日	第102回 日本消化器病学会	超音波内視鏡下吸引細胞診(EUS-FNA)が 診断に有用であった食道神経内分泌癌の一例	山道 忍
		IgG4関連硬化性胆管炎との鑑別が困難であった 膵癌の一例	澤瀬 寛典

## 講演会・セミナー

会 期	講演会・セミナー名	演 題	講 師
2013年年 8月19日	エーザイ(株)MR実践研修	ヒュミラ・パリエットの製品情報概要について	小田 英俊
2013年 10月29日	大塚製薬(株)社内勉強会	肝性浮腫の治療について	松崎 寿久
2014年 2月13日・19日	肝疾患病診連携学術講演会	C型慢性肝炎の新しい治療戦略について	木下 昇
2014年 3月6日	佐世保市薬剤師会 学術講演会	C型慢性肝炎の新しい治療戦略について	木下 昇
2014年 3月13日	県北サムス力適応追加記念講演会	当院で経験した難治性腹水一例	山道 忍

## 座長

会 期	学会・講演会名	演 題	講 師	座 長
2013年 5月30日	B型肝炎ウイルス再活性化 対策研究会	B型肝炎最新の話 ~HBV再活性化を中心に	国立病院機構長崎医療セン ター 臨床研究センター 肝炎治療研究室長 長岡 進矢先生	木下 昇
2013年 11月14日	第1回 長崎県北肝疾患 研究会	ウイルス肝炎の最新の話	大分大学医学部附属病院 肝疾患相談センター 診療教授 清家 正隆先生	木下 昇

## 代表世話人

会 期	学会・講演会名	演 題	講 師	座 長
2013年 3月13日	県北サムス力適応追加記念 講演会	非代償性肝硬変治療における サムス力の役割	長崎大学病院 消化器内科 准教授 市川 辰樹先生	木下 昇

## 人工透析センター

### 講演会・セミナー

会期	講演会・セミナー名	演題	講師
2013年 4月18日	協和発酵キリン(株) 社員教育講演会	血液透析患者の糖尿病治療ガイド2012	浪江 智
2013年 8月8日	中外製薬(株)社内勉強会	透析療法の歴史に関して知識向上	浪江 智

## 外科

### 学会・研究会

会期	学会名	演題	発表者
2013年 4月11～13日	第113回 日本外科学会 定期学術集会	大腸癌におけるoncologic emergency 手術症例の検討	重政 有
2013年 5月10～11日	第50回 九州外科学会	診断に苦慮した移動盲腸を伴う虫垂炎症後 癒着性イレウスの一症例	草場 隆史
2013年 5月31日	第35回 日本癌局所療法 研究会2013	術前化療後に間質性肺炎を併発し不慮の 転帰をとった胃癌の1例	梶原 啓司
		stageⅢa結腸癌(Rsを含む)における 再発危険因子の選定	重政 有
2013年 6月1日	平成25年度 第一外科同門研究会	胃噴門部近傍に発症した胃粘膜下腫瘍に対して LECS(腹腔鏡・内視鏡合同胃局所切除術)が 有用であった一症例	草場 隆史
2013年 6月21～22日	第101回 日本消化器病学会 九州支部例会	stageⅢa結腸癌(Rsを含む)に対する術後補助 化学療法と再発危険因子の検討	重政 有
2013年 7月17～19日	第68回 日本消化器外科学会 総会	大腸癌に起因した腸閉塞症の検討	重政 有
2013年 9月14日	第38回 日本大腸肛門病学会 九州地方会	StageⅢ結腸、直腸S状部癌における 再発低危険群の提唱	重政 有
		CT-colonography検査の術前大腸精査としての 有用性とその問題点についての検討	草場 隆史
2013年 10月9～12日	第55回 日本消化器病学会大会	StageⅢ結腸、直腸S状部癌における 再発危険因子の検討と術後補助化学療法について	重政 有
2013年 10月24～26日	第51回 日本癌治療学会 学術集会	stageⅢa結腸癌(Rsを含む)における 再発危険因子の選定	重政 有
2013年 11月8～9日	第102回 日本消化器病学会	術前mFLOFOX+Bmab療法を行い 根治切除し得た進行直腸癌の1例	小山正三朗
2013年 11月15～16日	第68回 日本大腸肛門病学会 学術集会	stageⅢa結腸癌(Rsを含む)における再発危険因 子の抽出および術後補助化学療法の効果について	重政 有
		下行結腸癌術後、機能的端々吻合部に全周性の 再発をきたした1例	小山正三朗
2013年11月 21～23日	第75回 日本臨床外科学会総会	StageⅢ結腸癌ではStageⅢaかつ壁深達度 SS以浅の症例は術後補助化学療法を省略できるか もしれない	重政 有
		孤立性胸椎転移をきたした大腸癌の1例	草場 隆史
		典型的な画像所見を示さなかった 隣グルカゴノーマの1例	橋本 泰匡
		下行結腸癌術後16ヶ月目に機能的端々吻合部に 再発を認めた1例	小山正三朗

会期	学会名	演題	発表者
2014年 1月25日	第9回 Net Work Japan	典型的な画像所見を示さなかった 腓骨グルカゴノーマの1例	橋本 泰匡
2014年 2月28日~3月1日	第54回 肺癌学会九州支部 学術集会	孤立性に対側リンパ節のみに転移をきたした 肺腺癌の1例	小山正三朗
2014年 3月6日~7日	第50回 日本腹部救急医学会 総会	食餌性イレウスの3例	橋本 泰匡

### 講演会・セミナー

会期	講演会・セミナー名	演題	講師
2013年 5月24日	佐世保大腸がん治療セミナー	StageⅢa結腸・直腸S状部癌における 再発危険因子の検討と術後補助化学療法について	重政 有
2013年 9月25日	エーザイ(株)MR実践研修	リリカル・ルネスタの製品情報概要について	重政 有

### 座長

会期	学会・講演会名	演題	講師	座長
2014年 2月22日	日本医療マネジメント学会 第14回 長崎支部学術集会	医療の質・患者支援・入院支援①		碓 秀樹
2014年 3月14日	第11回 長崎呼吸器外科 研究会	1.『拡大胸腺摘出術後に創離開・ 感染を来した一肥満症例 2.開放性気胸を伴う多発外傷の 一救命例	1.大分県立病院 呼吸器外科 下山孝一郎先生 2.佐世保市立総合病院 一般外科 谷口大輔先生	碓 秀樹

### 論文

題名	掲載誌	著者
術前治療後に間質性肺炎を併発し不慮の 転帰をとった胃癌の1例	癌と化学療法 第40巻 2013年11月	梶原 啓司・永松 雅朗 武岡 陽介・草場 隆史 重政 有・羽田野和彦 佐々木伸文・碓 秀樹 國崎 忠臣・大島 一浩 米満 伸久
StageⅢa結腸癌における再発危険因子の 選定	癌と化学療法 第40巻 2013年11月	重政 有・小山正三朗 橋本 泰匡・草場 隆史 梶原 啓司・佐々木伸文 碓 秀樹・國崎 忠臣 米満 伸久

## 脳神経外科

### 学会・研究会

会期	学会名	演題	発表者
2013年 1月26日	第113回 日本脳神経外科学会 九州支部会	筋原性分化を伴った肉腫部分を有する gliosarcomaの1例	河井 伸一
2013年 3月5日	第112回 県北神経懇話会	モンロー孔閉塞をきたした胚腫の1例	河井 伸一
2013年 3月5日	第115回 県北神経懇話会	当院における急性期脳主幹動脈閉塞症に対する 緊急再開通療法の初期成績	小林 広昌
2013年 5月15日	第72回 日本脳神経外科学会 学術総会	高齢者急性硬膜下血腫に対する神経内視鏡 下小開頭血腫除去術の検討	小林 広昌

会期	学会名	演題	発表者
2013年 5月24日	第31回 脳腫瘍病理学会	筋原性分化を伴った肉腫部分を有する gliosarcomaの1例	河井 伸一
2013年 6月9日	East Asian Conference of Neurointervention 2013.6.9	Endovascular treatment of pediatric intracranial aneurysms ; A retrospective study of 35 aneurysms	Takemoto K Tateshima S Golshan A Gonzalez N Jahan R Duckwiler G Vinuela F.
2013年 6月22日	第114回 日本脳神経外科学会九州支部会	モンロー孔閉塞をきたしたHCG産生胚腫の1例	河井 伸一
2013年 9月28日	第115回 日本脳神経外科学会九州支部会	ノカルジア属細菌による脳膿瘍の1例	河井 伸一
2013年 11月21日	第29回 日本脳神経血管内治療学術総会	バルーンにより内頸動脈を温存し頸動脈のコイル塞栓術で治癒し得たdirect CCFの2例	小林 広昌
		小児動脈瘤の脳血管内治療	竹本光一郎 立嶋 智 Golshan A Gonzalez N Jahan R Duckwiler G
2014年 2月1日	第116回 日本脳神経外科学会九州支部会	非特異的画像所見を呈した小脳悪性リンパ腫の1例	小林 広昌

### 講演会・セミナー

会期	講演会・セミナー名	演題	講師
2013年 12月14日	第4回京都大学脳神経外科 NeuroIVR研修セミナー IVR道場	コイル塞栓術中に血栓症を、慢性期に親血管へのコイル脱出を来した破裂遠位前大脳動脈瘤の1例	竹本光一郎
2014年 3月8日	第30回 長崎CT・MR研究会	MR plaque imagingの臨床と研究	竹本光一郎

## 心臓血管外科

### 学会・研究会

会期	学会名	演題	発表者
2013年 6月22日	Heart Valve Society of America 7TH BIENNIAL CONGRESS	Twelve-Year of Experience With The ATS Mechanical Heart Valve prostheses	谷口真一郎
2013年 10月10日	第54回 日本脈管学会総会	心臓血管外科術後に発生した鼠径部リンパ瘻の検討	谷口真一郎
2013年 10月26日	14Th Congress of Asian Society for Vasucular Surgery	A Case of Aortocaval Fistula Due to Ruptured Abdominal Aortic Aneurysm	谷口真一郎
2013年 11月25日	第26回 日本外科感染症学会 総会学術集会	急性動脈閉塞症を契機として発見された僧帽弁位感染性内膜炎の1例	谷口真一郎

会 期	学 会 名	演 題	発 表 者
2013年 12月7日	第115回 日本循環器学会 九州地方会	開心術後の心血管イベント抑制に対するβ遮断薬の 及ぼす影響	中路 俊
		頻脈性心房細動に伴う難治性心不全に対し房室ブ ロック作成術及びCRT加療が奏功した1例	佐藤 慧
2014年 1月23日	第28回 心臓血管外科 ウインターセミナー学術集会	コイル塞栓術により治療を行った肺底区動脈 大動脈起始症の一例	中路 俊

### 講演会・セミナー

会 期	講演会・セミナー名	演 題	講 師
2013年 4月5日	第6回 県北周術期管理懇話会	開心術後の頻脈性不整脈予防における 塩酸ランジオロールの有効性	中路 俊
2013年 8月2日	佐世保PADカンファレンス	多臓器合併疾患を有する閉塞性動脈硬化症の 治療経験	谷口真一郎
2013年 8月10日	下肢静脈瘤市民セミナー	健康保険を利用した下肢静脈瘤のレーザー治療の 現状	中路 俊
2013年 10月21日	第1回 慢性疾患治療連携セミナー	循環器領域における新しい地域連携型医療を 目指して	谷口真一郎
2014年 1月28日	県北血管内治療フォーラム	佐世保中央病院でのステントグラフト内挿術の 治療経験	谷口真一郎

### 座長

会 期	学会・講演会名	演 題	講 師	座 長
2013年 4月5日	第6回 県北周術期管理 懇話会	開心術後の頻脈性不整脈予防に おける塩酸ランジオロールの 有効性	佐世保中央病院 心臓血管外科 中路 俊	柴田隆一郎
2013年 7月5日	第9回 西九州循環器 フォーラム	大動脈弁狭窄症に対する カテーテル治療	小倉記念病院 循環器内科 CCU担当部長 白井 伸一先生	柴田隆一郎
2013年 8月2日	佐世保PADカンファレンス	Gloval Vascular Management	小倉記念病院 末梢血管インターベンション部 主任部長 横井 宏佳先生	柴田隆一郎
2014年 1月28日	県北血管内治療フォーラム	大動脈ステントグラフト治療の 現況	長崎大学大学院医歯薬学総 合研究科 放射線診断治療 学 准教授 坂本 一郎先生	柴田隆一郎

### 論文

題 名	掲 載 誌	著 者
Impact of surgical site infections after open and laparoscopic colon and rectal surgeries on postoperative resource consumption	Infection DOI 10.1007/s15010-012- 0317-7	H. Fukuda, K.Morikane M.Kuroki, S.Kawai K.Hayashi, Y.Ieiri H.Matsukawa, K.Okada F.Sakamoto, T.Shinzato S.Taniguchi

題 名	掲 載 誌	著 者
Pharmacokinetics of linezolid in the mediastinum and pleural space	International Journal of infectious Diseases 17(2013) e1060-e1061	Yasuhiro tsuji, Wataru Hashimoto, <u>Shinichiro Taniguchi</u> , Yoichi Hiraki, <u>Akiko Mizoguchi</u> , Eiji Yukawa, Hideto To
A Case of Transient Advanced Atrioventricular Block after Aortic Valve Replacement, Report of Case	Open Journal of Thoracic Surgery, 2013, 3, 140-142	Wataru Hashimoto, <u>Shinichiro Taniguchi</u> , <u>Ryuichiro Shibata</u> , Takashi Miura, Tomohiro Odaka, Kazuki Hisatomi, Kiyoyuki Eishi
急性大動脈解離と類似した症状を呈した急性特発性脊髄硬膜外血腫の1例	日本救急医学会雑誌 vol.24(2013)No.6 p.363~366	橋本 亘・谷口真一郎 柴田隆一郎

## 小児科

### 学会・研究会

会 期	学 会 名	演 題	発表者
2013年 4月14日	第189回 日本小児科学会 長崎地方会	小児科外来における発達障害児支援 ～ひまわりサークルの取り組み	犬塚 幹
2013年 5月31日	第55回 日本小児神経学会 学術集会	不登校を示した起立性調節障害例の検討	犬塚 幹
2013年 7月21日	第190回 日本小児科学会 長崎地方会	発症時よりチックが疑われていたミオクロニー 欠伸てんかんの男児例	犬塚 幹
2013年 9月12日	長崎県北小児科医会	佐世保中央病院小児神経外来の紹介、 熱性けいれんやてんかんの講義	犬塚 幹
2013年 11月14日	第34回 長崎てんかん研究会	小児てんかんの基礎	犬塚 幹
2013年 12月8日	第191回 日本小児科学会 長崎地方会	過眠を主訴に来院した注意欠陥多動性障害の 8歳男児例	犬塚 幹

### 講演会・セミナー

会 期	講演会・セミナー名	演 題	講 師
2013年 8月27日	長崎県特別支援学校養護教諭研究会 平成25年度 第1回研修会	てんかんの基礎	犬塚 幹
2013年 10月24日	グラクソ・スミスクライン株式会社 社内研修会	小児のてんかん	犬塚 幹

## 耳鼻咽喉科

### 講演会・セミナー

会 期	講演会・セミナー名	演 題	講 師
2014年 3月20日	佐世保市 第226回 佐世保耳鼻科会	当院における嚥下機能評価の現状	大里 康雄



## 放射線科

## 学会・研究会

会期	学会名	演題	発表者
2013年 7月13日	第36回 長崎県北消化器癌研究会	切除不能膀胱癌に対する温熱化学放射線療法の治療効果	平尾 幸一
		MRI拡散強調像で発見された膀胱内分泌腫瘍の一例	末吉 真
2013年 11月22日	民間病院を中心とした医療連携フォーラム(MIRF)	パネルディスカッション「医療機関におけるBCPの取り組み」	平尾 幸一

## 講演会・セミナー

会期	講演会・セミナー名	演題	講師
2013年 7月4日	平成25年度 山口県病院協会事務長部会研修会	医療機関同士の協働による地域医療連携の取り組みと課題ー前方連携と後方連携の課題ー	平尾 幸一
2013年 7月9日	特定医療法人博仁会 第一病院 講演会	医療機関同士の協働による地域医療連携の取り組みと課題ー前方連携と後方連携の課題ー	平尾 幸一

## 座長

会期	学会・講演会名	講師	座長
2013年 7月13日	第36回 長崎県北消化器癌研究会 特別講演	産業医科大学 放射線科 助教 矢原 勝哉 先生	平尾 幸一

## 論文

題名	掲載誌	著者
ハイパーサーミアの臨牀	佐世保市医師会報 2014年1月号	平尾 幸一
ICTによる在宅医療・介護連携ネットワークの重要性について	月刊 新医療 2014年1月号	平尾 幸一・富永 雅也

## 認知症疾患医療センター

## 学会・研究会

会期	学会名	演題	発表者
2013年 9月27日~29日	日本認知症予防学会学術集会	脳血流SPECTから見たドネペジルとメマンチンの作用部位	井手 芳彦

## 講演会・セミナー

会期	講演会・セミナー名	演題	講師
2013年 4月7日	メモリーシンポジウム2013	認知症の診断に苦慮した事例~認知症は奥深い!~	井手 芳彦
2013年 6月22日	長崎摂食嚥下リハビリ研究会	認知症と摂食嚥下障害	井手 芳彦
2013年 6月30日	糖尿病と認知症講演会 (Novartis)	リバスタグミン・パッチ症例報告	井手 芳彦
2013年 8月5日	調理師研修会	認知症と摂食嚥下障害	井手 芳彦

会 期	講演会・セミナー名	演 題	講 師
2013年 9月5日	製薬メーカー(エーザイ)研修	認知症治療薬	井手 芳彦
2013年 9月7日	地域リハビリ支援事業	認知症の相談と診療	井手 芳彦
2013年 9月10日	県北神経懇話会	脳血流SPECTによる認知症治療薬の比較	井手 芳彦
2013年 9月11日	認知症研修会	認知症を知る	井手 芳彦
2013年 10月27日	研修会「認知症キャラバンメイト 養成講座」	認知症の基礎と臨床	井手 芳彦
2013年 11月10日	介護実践研修会	認知症を知る	井手 芳彦
2013年 12月6日	長崎県北認知症研究会	脳血流SPECTからみたドネペジルとメマンチンの 作用部位	井手 芳彦 (座長・演者)
2014年 1月11日	認知症講演会	認知症疾患医療センターの役割	井手 芳彦
2014年 1月21日	佐世保市薬剤師研修会	認知症の薬物治療	井手 芳彦
2014年 1月24日	認知症講演会	認知症の早期発見	井手 芳彦
2014年 1月30日	県央認知症カンファレンス	認知症よろず相談	井手 芳彦
2014年 3月8日	認知症サポート医フォローアップ 研修会	認知症疾患センターの現状とこれからの取り組み	井手 芳彦 (座長・演者)
2014年 3月14日	佐世保市初老期認知症検討会		井手 芳彦
2014年 3月25日	認知症の人と家族の会定例会		井手 芳彦 (コメンテーター)

## 座長

会 期	講演会・セミナー名	座 長
2013年 7月8日	認知症講演会	井手 芳彦
2013年 7月25日	認知症診療医のための認知症講演会	井手 芳彦
2013年 7月30日	認知症診療医のための認知症講演会 ガラタミンの効果集計会議	井手 芳彦
2013年 8月30日	認知症講演会	井手 芳彦
2013年 10月26日	認知症疾患医療センター連携シンポジウム: 長崎大学精神科	井手 芳彦

## 健康増進センター

### 学会・研究会

会 期	会 議 名	座 長
2013年8月30日	第54回 日本人間ドック学会学術大会	中尾 治彦